

IIXIL

ビューステージ S style

先付けブラケット



* M A M 6 0 D *

取付説明書

- このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容（指示）にしたがってください。
- この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号 記号の意味

**警告**

- 取付けを誤った場合に、使用者などが死亡または重傷を負う危険が想定されます。

**注意**

- 取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険または物的損害の発生が想定されます。

一般情報に関する記号

**ポイント**

- 取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
- 守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。

**※**

- 取付け説明の内容全体（個々の説明枠）にかかる注意事項を示しています。
- 取付け説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。

**補足**

- 説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

<施工の前に>

**警告**

- 本体落下の原因になるおそれがありますので、下記事項をお守りください。
・当製品は木造躯体に取付ける構造になっています。取付け前に必ず躯体条件を確認してください。

<施工上のご注意>

**警告**

- 本体落下の原因になるおそれがありますので、下記事項をお守りください。
・先付けブラケットは外壁工事前に躯体に取付けてください。
・ボルト、コーチボルトの下穴には、指定より太いドリルを使用しないでください。

**注意**

- 取付説明書の順序通りに組付けてください。製品の強度など、性能が低下する場合があります。
- 製品破損による人への被害・物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください。
・ボルト、ねじは弊社純正品の規定本数を使い、下記締付けトルクで固定した後にゆるみがないか確認してください。
 φ5ねじ：3N・m ± 0.5N・m (30±5kgf・cm)
 M8ボルト：12.5N・m ± 0.5N・m (125±5kgf・cm)
 M10ボルト：24.5N・m ± 0.5N・m (245±5kgf・cm)
・製品の改造は絶対にしないでください。

<施工上のご注意(つづき)>

⚠ 注意

- 漏水のおそれがありますので、下記事項をお守りください。
 - ・指定個所には、必ずシーリングを充てんしてください。
 - ・サッシの下に先付けブラケットを取付ける場合は、必ずサッシ枠まわりの防水テープ工事後にブラケットを取付けてください。
 - ・先付けブラケットは、足場として使用しないでください。
 - ・外壁施工の際、先付けブラケットにモルタルが付着しないようにしてください。
 - ・水平・垂直は正確に出してください。施工に支障がでるおそれがあります。
 - ・先付けブラケットは上向き0.5度(先端部5mm)に設定されています。ブラケット取付け後、角度計で0.5度を確認のうえ、バルコニー本体を組立ててください。
 - ・レベル調整にはスペーサーを使用してください。

<施工上のお願い>

✎ 補足

- 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付け説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付け説明書にしたがってください。
- 梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。
- 施工中についた汚れは取除き、誤ってキズをつけた場合は補修塗料で補修してください。
- 施工工事にあたっては、安全に施工を行ってください。
 - ・作業服および保護具(保護帽、安全帯、眼、耳、手、足の保護具)を正しく使用してください。
 - ・作業場所の整理整頓を行うとともに、安全確保を行ってください。
特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
 - ・器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
 - ・作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行ってください。
 - ・作業者などが相互に安全確認を行ってください。健康状態を十分確認し、健康管理を実施してください。
 - ・万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行い、救助を第一に心がけてください。

INDEX

1	梱包明細表	3	5	先付けブラケットの取付け位置確認	22
2	構造説明図	4	1	取付け位置の確認	22
	● 胴差し納まり	4	2	取付け穴位置の確認	25
	● 柱芯納まり	5	6	防水方法	26
3	施工の流れ	6	7	先付けブラケットの取付け	27
	● 躯体構造の確認	6		● 胴差し納まり	27
	● 建物外壁の確認	6	1	先付けブラケットの仮組み	27
	● 先付けブラケットの納まり確認	6	2	先付けブラケットの取付け	28
	● 設置位置の確認	7		● 柱芯納まり	30
	● 躯体条件の確認	8	1	取付け穴の加工	30
	● 施工の前に	8	2	先付けブラケットの取付け	31
	● 取付け時期の確認	8	8	最終調整	37
	● 胴差し納まり 先付けブラケット取付方法	9	1	角度確認	37
	● 先付けブラケット取付け位置の確認	12	2	増締めキャップの取付け	37
	● 外装材の工事	12	3	水平確認	37
	● サイディングパネルの施工	12	9	防水パッキンの張付け	38
	● 下地材取付け位置	14		● 胴差し納まり	38
4	躯体の補強	16		● 柱芯納まり	39
	● 胴差し納まり 在来工法	16	10	納まり図	40
	● 胴差し納まり 2×4工法	19	1	胴差し納まり	40
	● 柱芯納まり 在来工法	21	2	柱芯納まり	43
			3	フルフラットタイプ	47

1 梱包明細表

■ 梱包明細表

【1】先付けブラケット（胴差し）

名 称	略 図	員 数	
		2本入	3本入
先付けブラケット		2	3
角座金M10		4	6
スペーサーB		2	3
増締キャップ		4	6
目地パッキン		2	3
防水パッキン		2	3
バックアップ材		4	6
防水シート		2	3
【1-1】六角ボルトM10×150		4	6
【1-2】六角コーチボルトM8×90		4	6
【1-3】平ワッシャーM10用		4	6
【1-4】ナベタッピンねじ1種φ4×45		13	19
取付け説明書 (MAM-60)		1	1

【3】補強金具セット

名 称	略 図	員 数			
		2×4工法		在来工法	
		1.0・1.5間	2.0間	1.0・1.5間	2.0間
躯体補強金具L		3	5	2	3
躯体補強金具R		3	4	2	3
角座金M10		2	3	—	—
【3-1】六角ボルトM10×150		4	6	2	3
【3-2】平ワッシャーM10用		6	9	4	6
【3-3】ナットM10用		2	3	2	3
【3-4】ナベタッピンねじ1種φ5×40		18	19	8	13

【4】ブラケット取付けゲージセット

名 称	略 図	員 数
ブラケットゲージ		1
【4-1】六角ボルトM6×16		4
【4-2】六角ナットM6		4

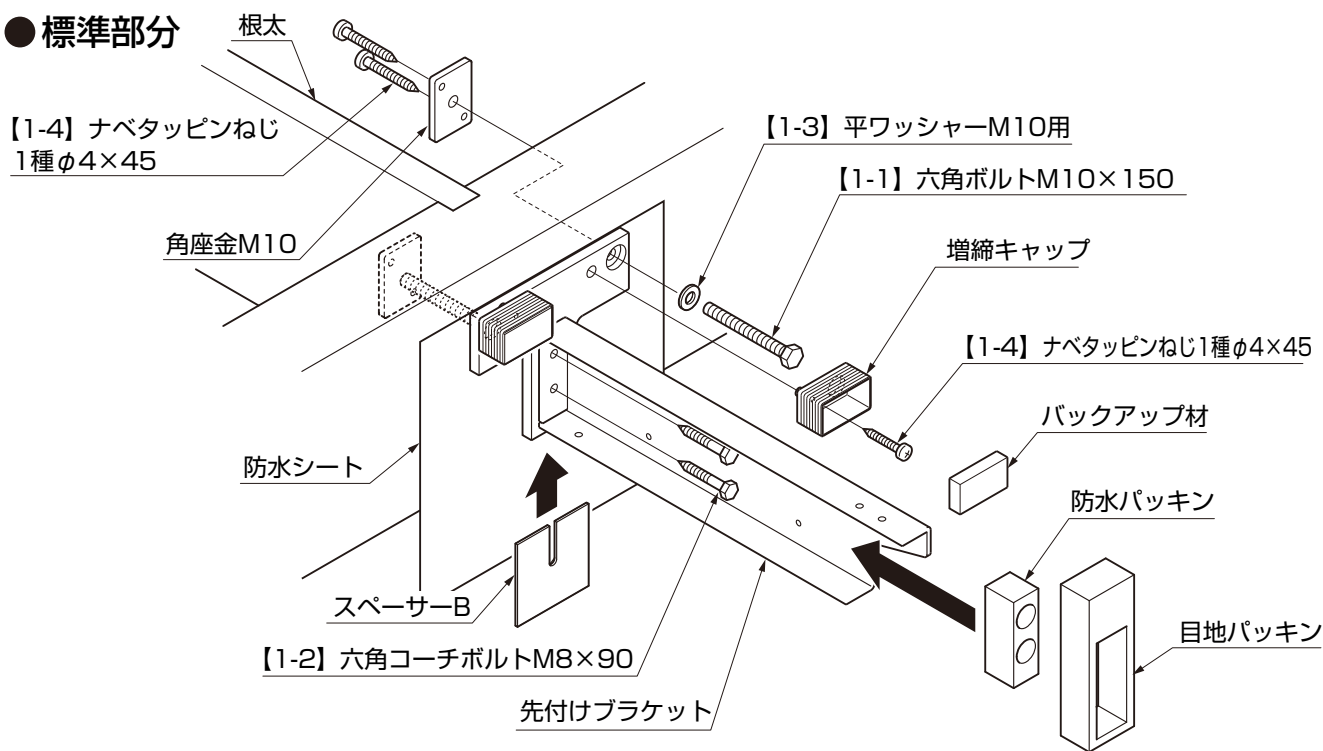
【2】先付けブラケット（柱芯）

名 称	略 図	員 数			
		LR 2本入	L 1本入	R 1本入	連棟 1本入
先付けブラケット（左用）		1	1	—	—
先付けブラケット（右用）		1	—	1	—
先付けブラケット（連棟用）		—	—	—	1
躯体補強金具L		2	2	—	2
躯体補強金具R		2	—	2	2
角座金M10		4	2	2	4
スペーサーB		2	1	1	1
目地パッキン（単体）L		1	1	—	—
目地パッキン（単体）R		1	—	1	—
目地パッキン（連棟）		—	—	—	1
防水パッキン		2	1	1	2
防水シート		2	1	1	1
【2-1】六角ボルトM10×150		4	2	2	7
【2-2】六角ボルトM10×40		2	1	1	2
【2-3】六角コーチボルトM8×90		14	7	7	3
【2-4】平ワッシャーM10用		16	8	8	11
【2-5】ナットM10用		—	—	—	3
【2-6】ナベタッピンねじ1種φ4×45		8	4	4	8
取付け説明書 (MAM-60)		1	1	1	—

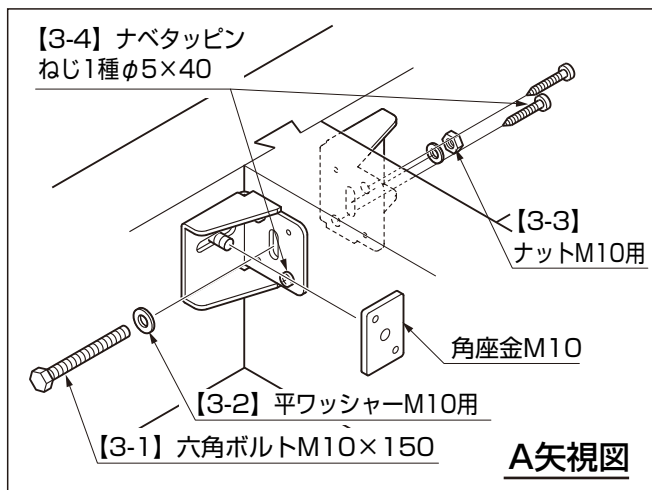
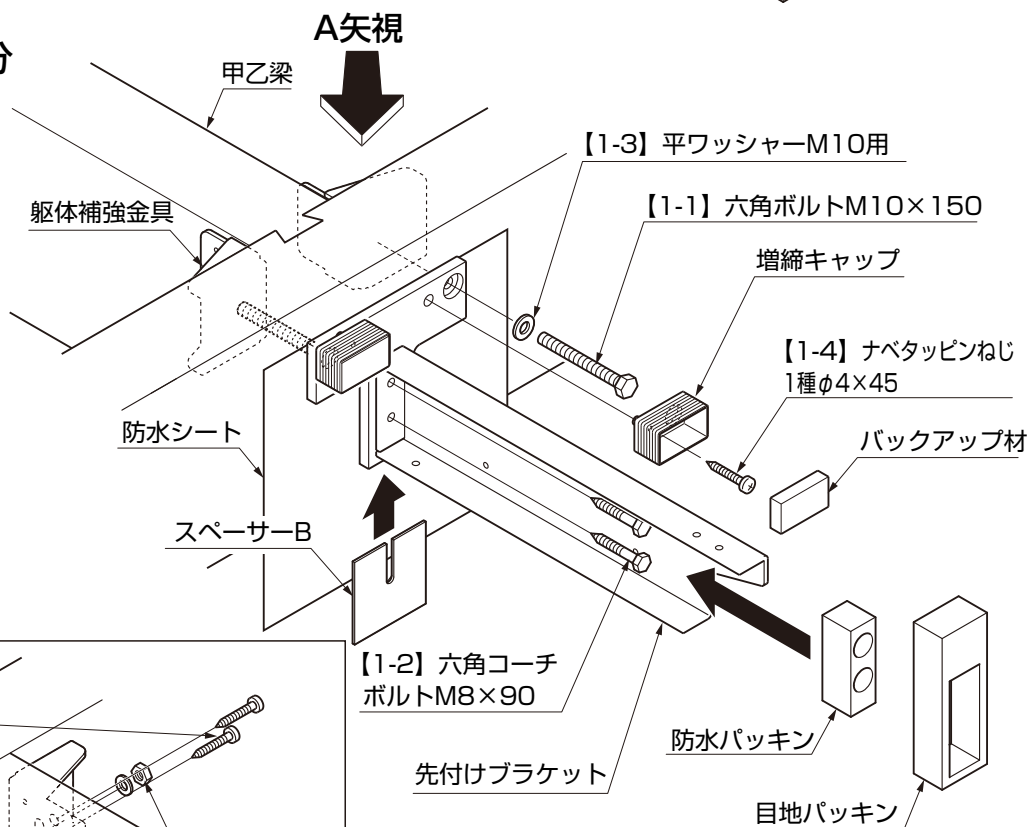
2 構造説明図

● 胴差し納まり

● 標準部分



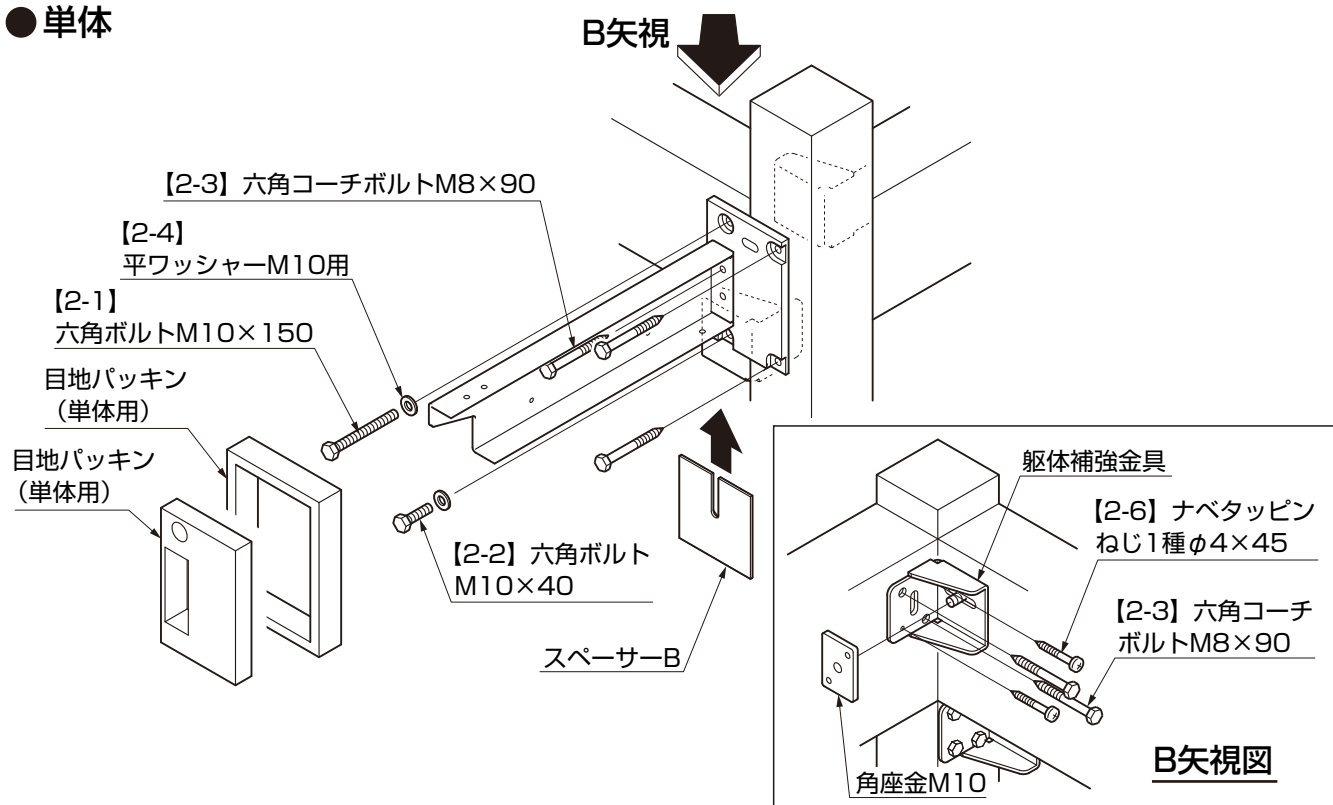
● 継手・側根太部分



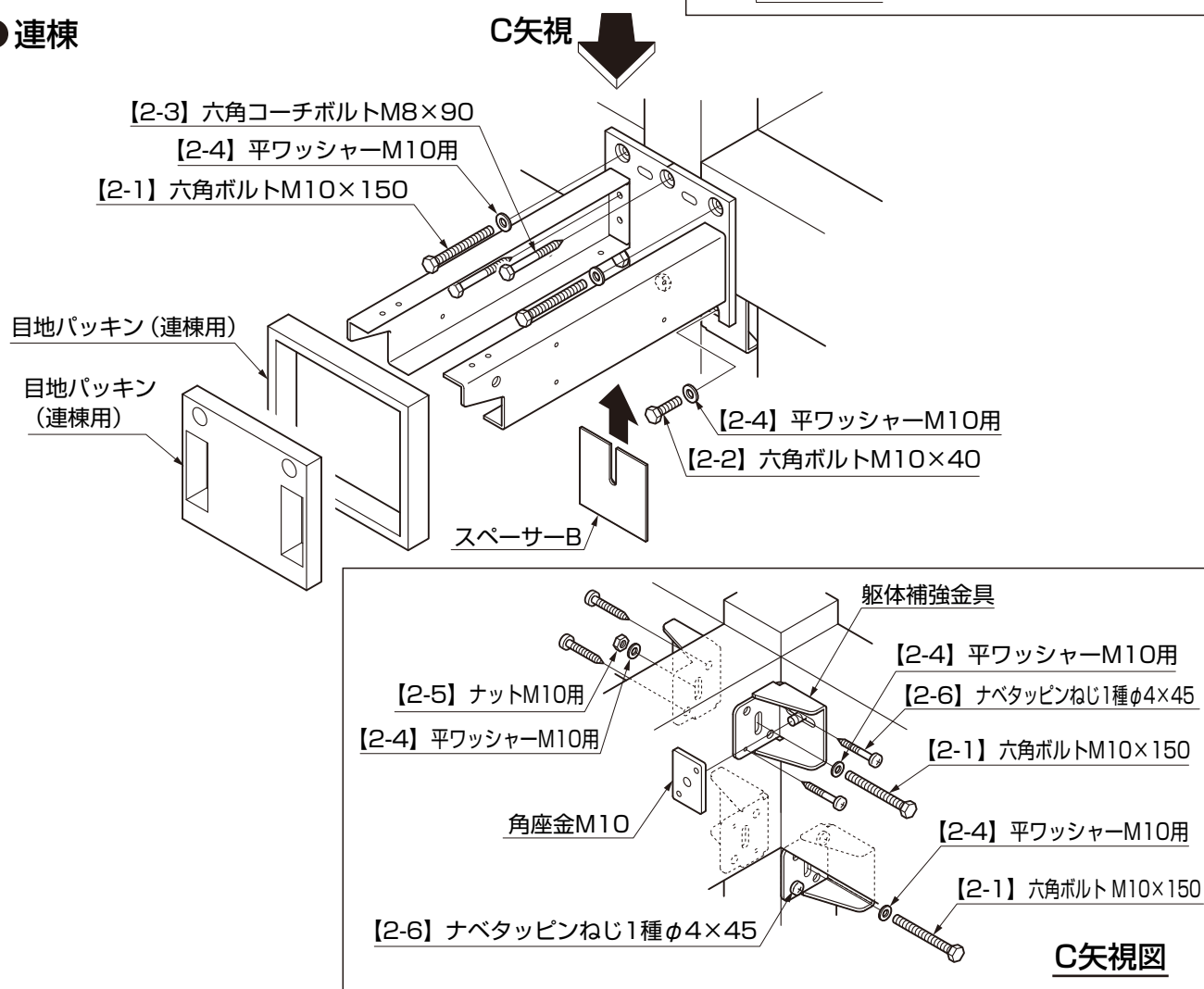
※先付けブラケットに左右勝手はありません。

● 柱芯納まり

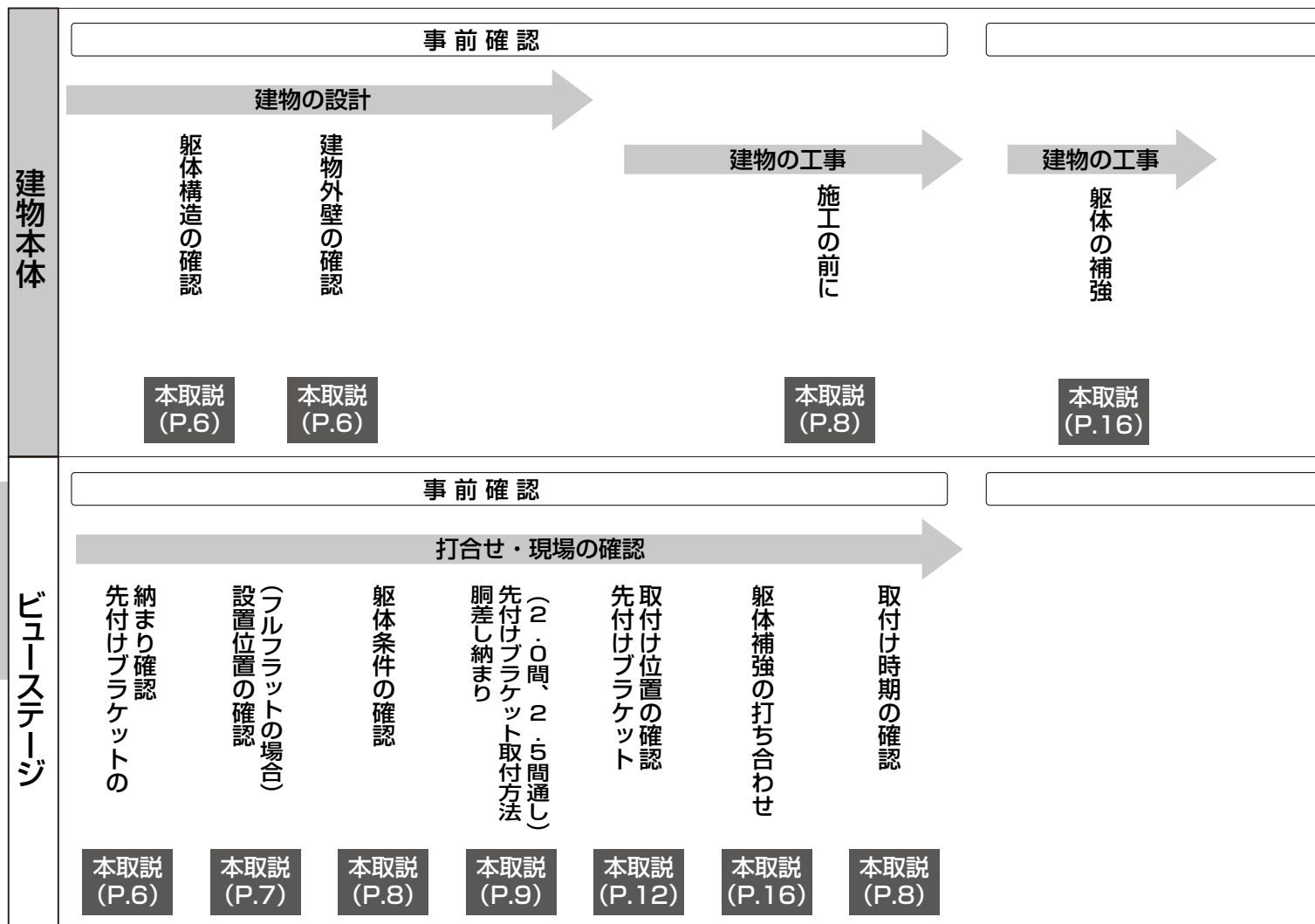
● 単体



● 連棟



3 施工の流れ

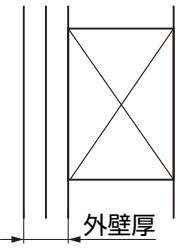


● 躯体構造の確認

ポイント

- 躯体が木造であることを確認してください。

● 建物外壁の確認



ポイント

- 外壁厚を確認してください。
- 外壁厚12～50mmまで対応できます。
- サイディング金物、胴縁等を含んだ厚さとなります。

● 先付けブラケットの納まり確認

躯体構造	先付けブラケット	
	胴差し納まり	柱芯納まり
在来工法	○	○
2×4工法	○	—

ポイント

- 先付けブラケット取付け部の納まりを確認の上、ブラケットを選択してください。
- フルフラットは柱芯納まりとなります。

施工

外装材の工事

外装材の施工

本取説
(P.12)

完成

3

施工の流れ

施工

先付けブラケットの取付け

先付け位置確認
先付けブラケット

防水方法

先付けブラケットの
取付け

最終調整

張付け
防水パッキンの

本取説
(P.22)

本取説
(P.26)

本取説
(P.27)

本取説
(P.37)

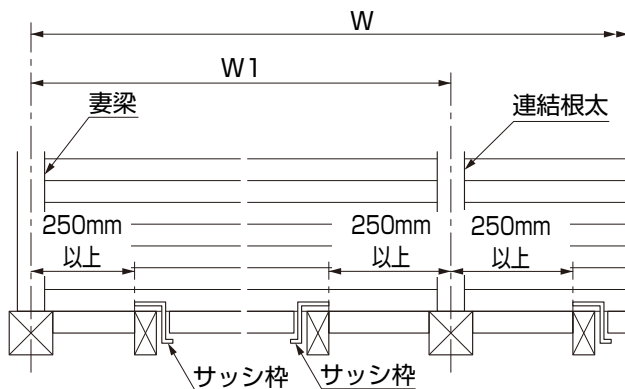
本取説
(P.38)

ビューステージの取付け

サイディングパネルの施工

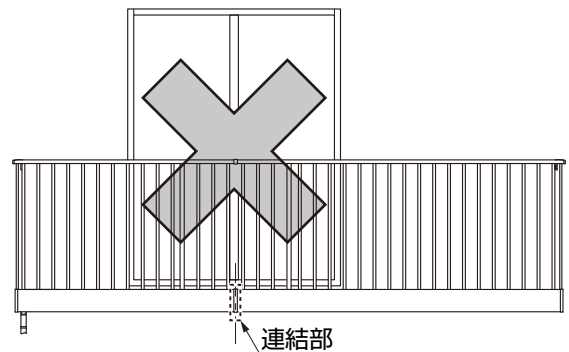
本取説
(P.12)

● 設置位置の確認（フルフラットの場合）



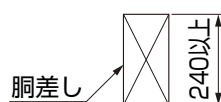
● バルコニーモジュール芯とサッシ枠は250mm以上確保してください。

ポイント

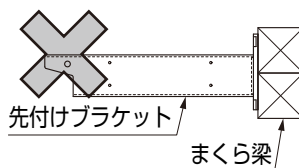


● 連棟の場合、連結部をまたぐようにサッシを取付けることはできません。

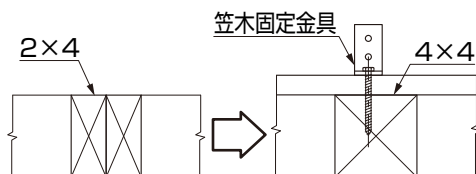
● 躯体条件の確認



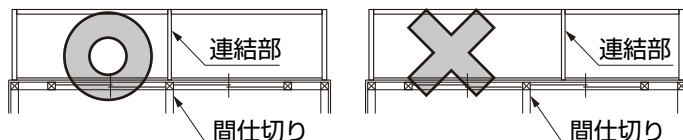
● 胴差し納まりの場合は、必ず240mm以上の胴差しを使用してください。



● まくら梁は絶対に使用しないでください。



● 2×4工法の場合、笠木取付け部には、4×4の柱を使用してください。



● 連棟の場合、連結部には、必ず間仕切り壁用の柱および2階床梁がくるようにしてください。

● 通気工法の場合、バルコニー固定部通気層には、下地材を入れてください。
※ 取付け位置詳細は「● 下地材取付け位置」(P.14) を参照してください。

● 施工の前に

● 建物本体を施工する前に下記事項についてお打合せしてください。

- ・ 先付けブラケットの取付け時期
- ・ バルコニーの取付け時期
 - ① 足場の取付け依頼
 - ② 躯体施工の依頼
 - ③ ブラケット取付け部・躯体補強の依頼
- ※ 詳細は「4 躯体の補強」(P.16) を参照してください。
- ・ バルコニー面材の取付け時期

● 取付け時期の確認

● ビューステージを施工する前に下記事項についてお打合せしてください。

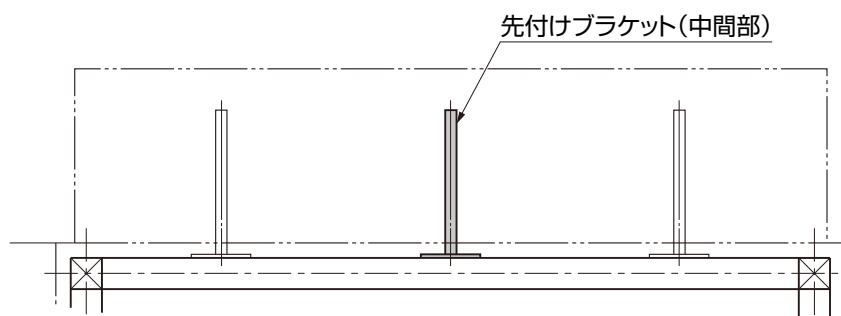
- ・ 先付けブラケットの取付け時期
- ・ バルコニーの取付け時期
 - ① 足場の取付け依頼
 - ② 躯体施工の依頼
 - ③ ブラケット取付け部・躯体補強の依頼
- ※ 詳細は「4 躯体の補強」(P.16) を参照してください。
- ・ バルコニー面材の取付け時期

● 胴差し納まり 先付けブラケット取付方法（2.0間、2.5間通し）

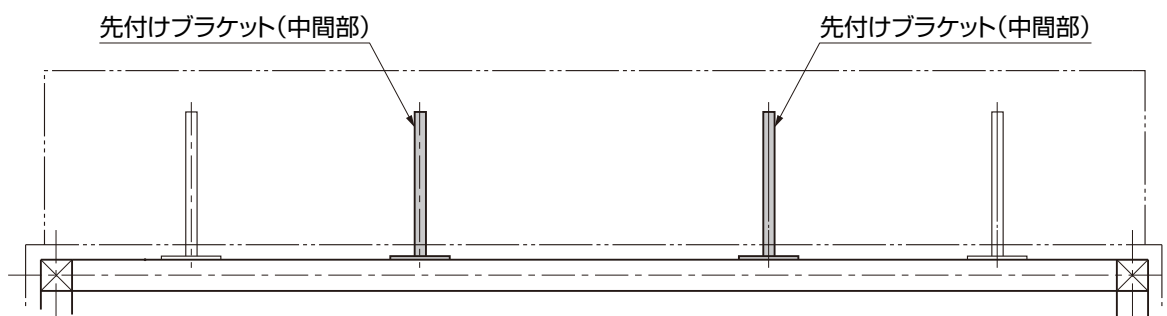
- 柱無しタイプ 胴差し納まり2.0間および2.5間通し（メーター4000および5000）の中間部の先付けブラケット取付位置が躯体の建築金物へ干渉し、取付けられない場合があります。
その際は、下記4点より現場にあった対応方法を選択し、取付けてください。

【該当箇所】

● 2.0間単体



● 2.5間通し単体



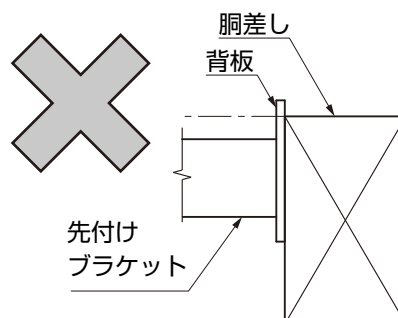
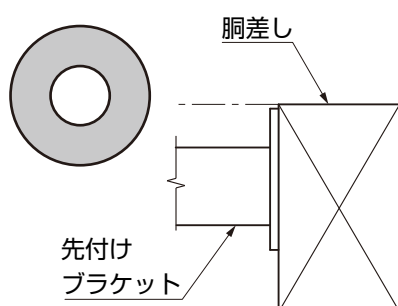
【対処方法】

1 バルコニー取付位置の高さ変更（2.0間、2.5間通し）

- バルコニー取付位置を高さ方向に変更してください。

ポイント

- 建築金物が干渉しない位置に高さを変更してください。
その際、先付けブラケットの背板が胴差しからはみ出ないようにしてください。

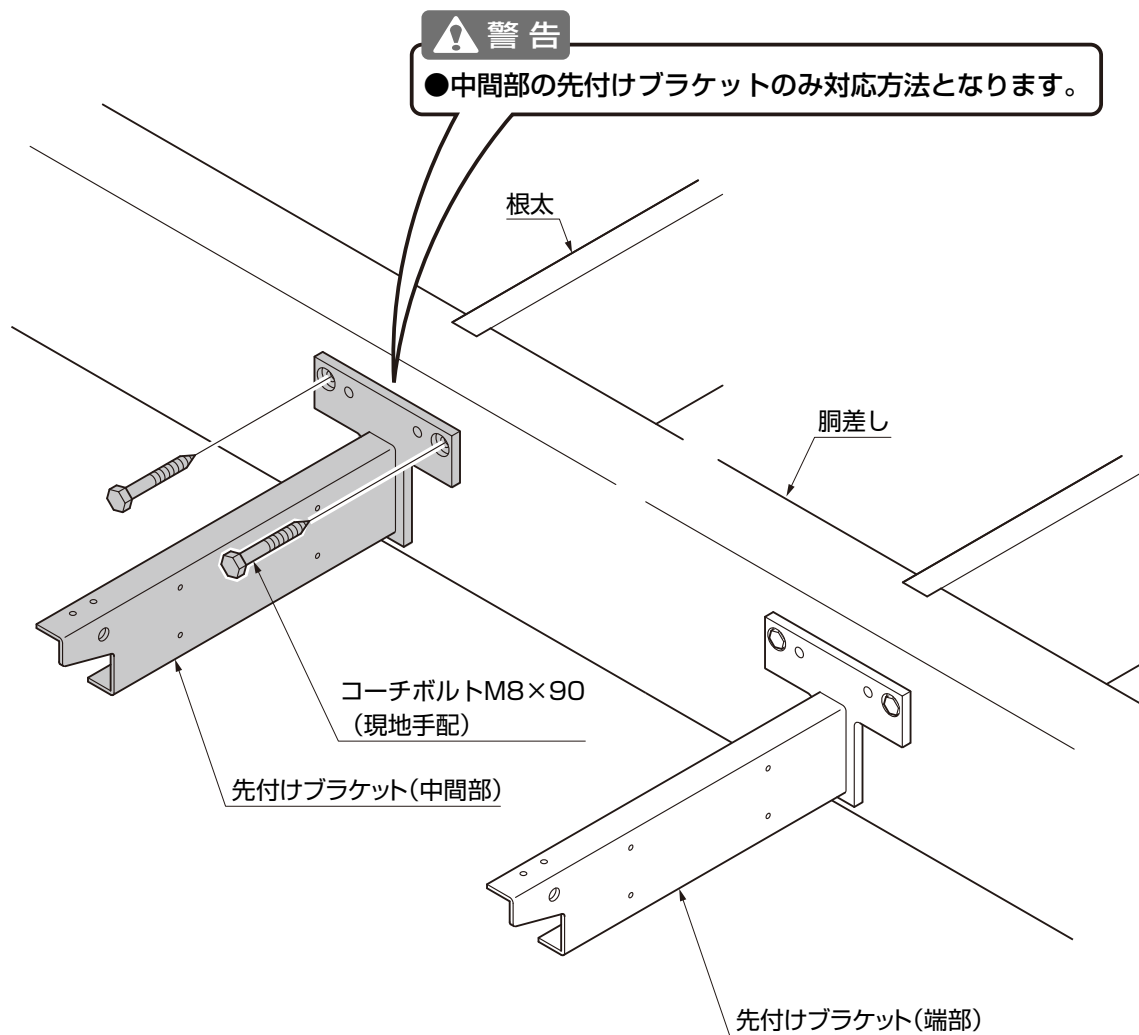


2 中間部の先付けブラケットの取付け方法（2.0間、2.5間通し）

- 中間部の先付けブラケットを六角コーチボルトM8×90で取付けてください。

ポイント

- 追加ネジは現地手配となります。
- この納まりは社内基準は満たしていますが、適合確認書には適合していません。
適合確認書が必要な場合は、**1**、**3**にて対応をお願いします。

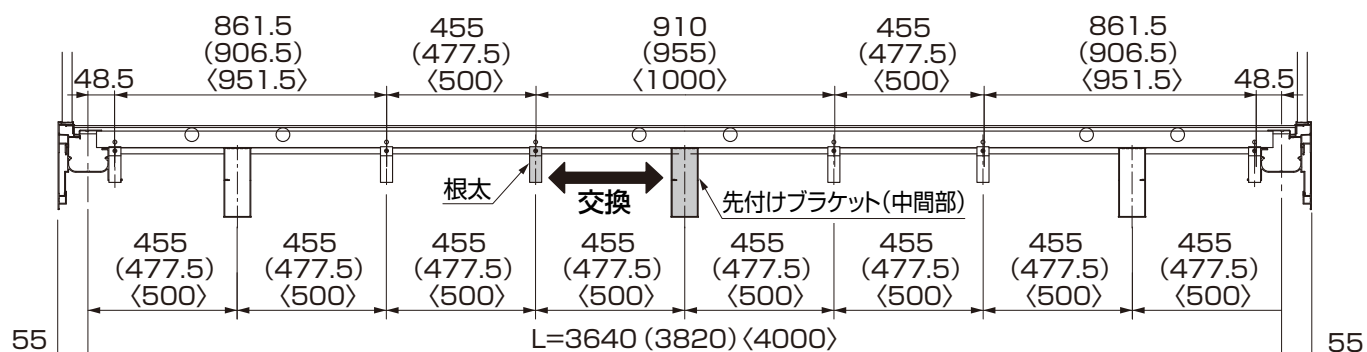


3 連棟納まりへの変更（2.5間通し）

- 2.5間連棟に変更してください。

4 中央の先付けブラケットと根太の位置の変更 (2.0間)

● 中間部の先付けブラケットと根太の位置を交換してください。

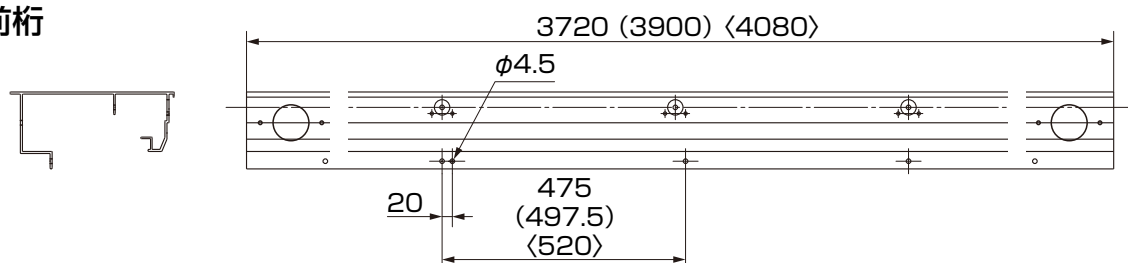


※ () 内寸法は九州・四国間

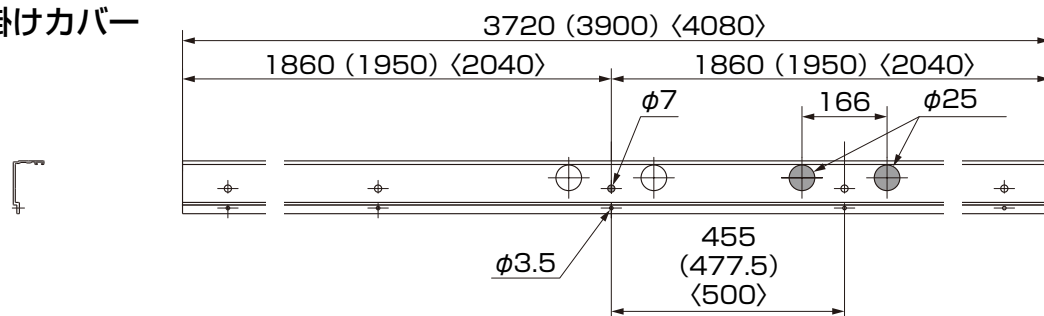
※ < > 内寸法はメーターモジュール

● 内観左側に先付けブラケットを移動させる場合の穴加工追加

● 前桁

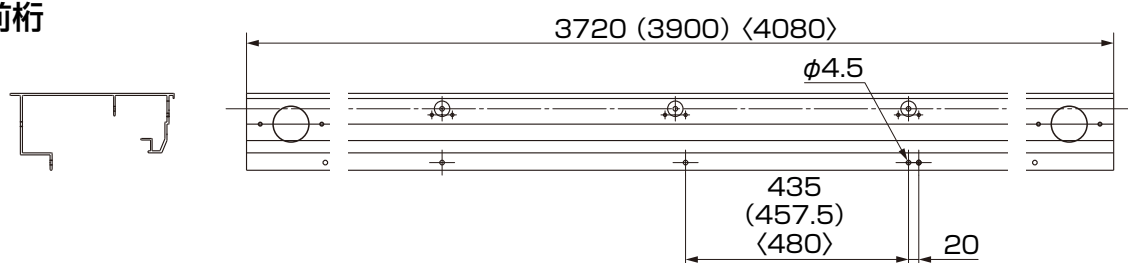


● 根太掛けカバー

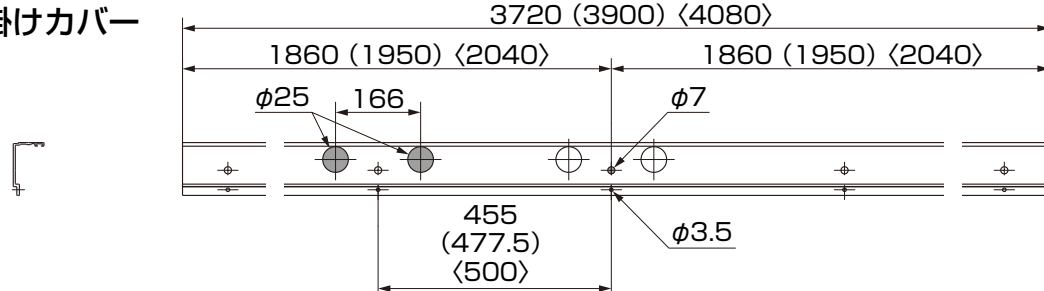


● 内観右側に先付けブラケットを移動させる場合の穴加工追加

● 前桁



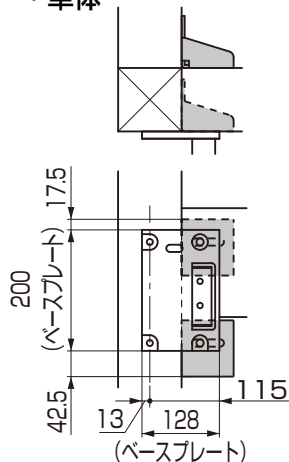
● 根太掛けカバー



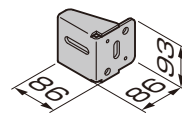
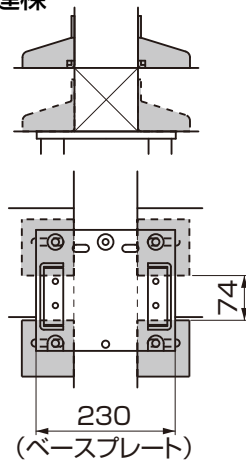
● 先付けブラケット取付け位置の確認

【柱芯納まり】

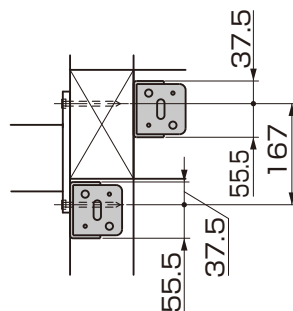
・ 単体



・ 連棟



躯体補強金具

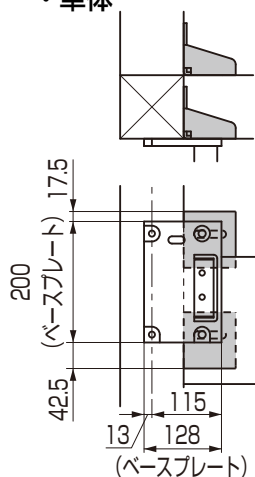


ポイント

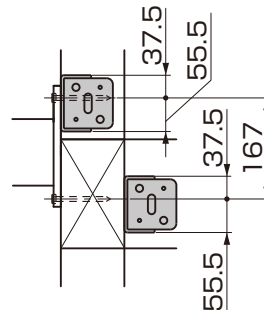
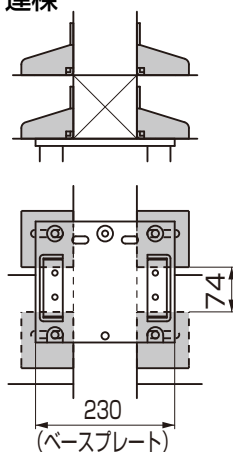
- 柱芯納まりの場合、背板裏側に躯体補強金具が取付きます。建築金物・筋交などに干渉しないか確認してください。
- 240mm以上の胴差しを固定する場合は、下側の躯体補強金具は不要となります。

【フルフラット納まり】

・ 単体



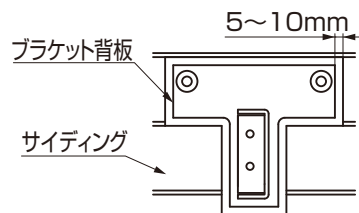
・ 連棟



● 外装材の施工

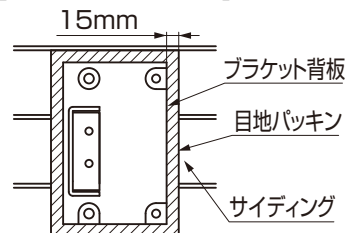
- 先付けブラケット周りの外装材は下記に従って施工してください。

【胴差し納まりの場合】



- ・ ブラケット背板と外装材のチリ寸法を5~10mmあけて外装材を施工してください。

【柱芯納まりの場合】



- ・ ブラケット背板周りの目地パッキンに当てて、外装材を施工してください。

● サイディングパネルの施工

- 工務店さまと打合わせの上、バルコニーに張るサイディングを手配してください。

メモページ

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

● 下地材取付け位置

- 胴差し納まり ※ () 内寸法は九州・四国間
 ● 1.0間 ※ < > 内寸法はメーターモジュール

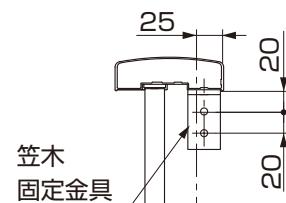
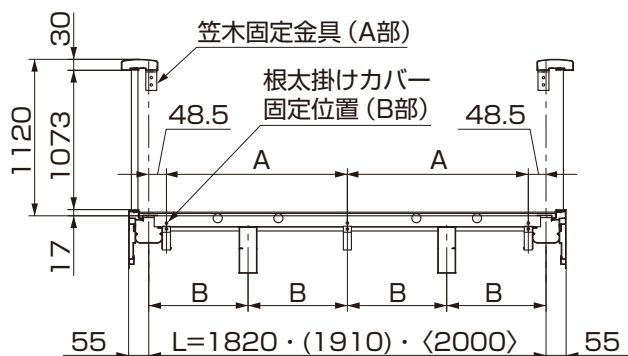


図1-1 A部詳細図

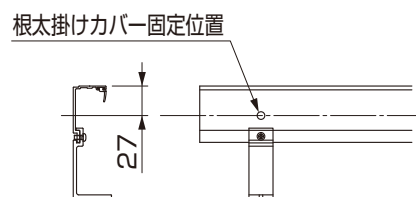
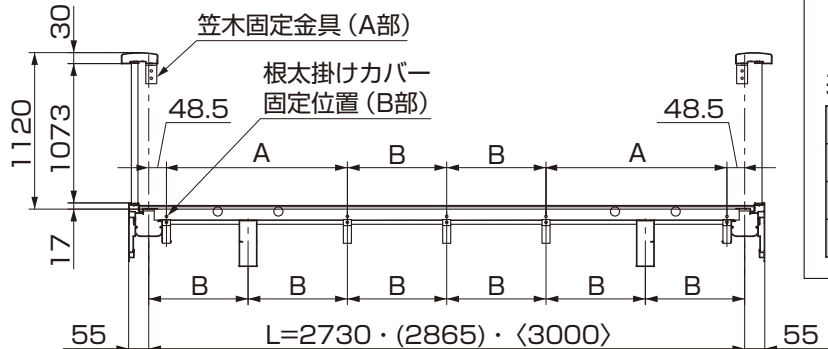


図1-2 B部詳細図

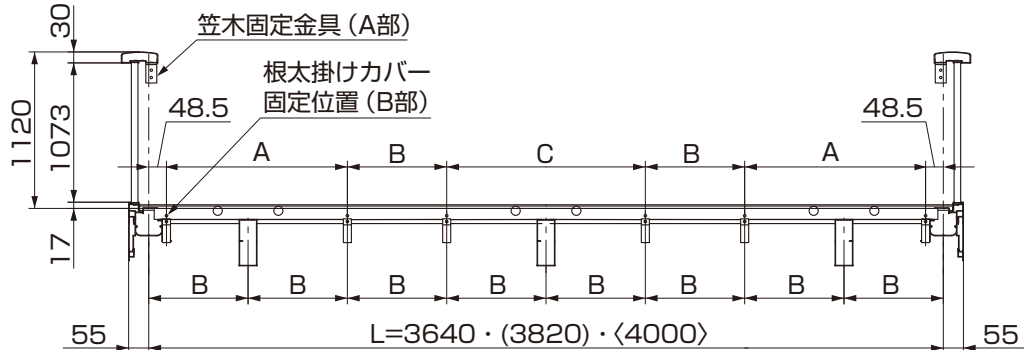
表1-1

サイズ	A	B	C
関東間	861.5	455	910
九州・四国間	906.5	477.5	955
メーターモジュール	951.5	500	1000

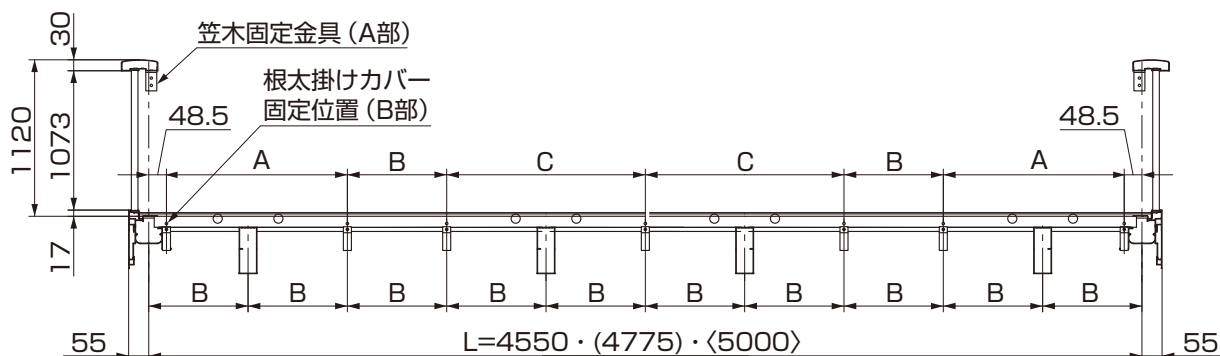
● 1.5間



● 2.0間



● 2.5間通し



①通気工法の場合、笠木固定金具と根太掛けカバー固定位置に下地材を入れてください。

● 柱芯納まり

● 1.0間

※ () 内寸法は九州・四国間

※ < > 内寸法はメーターモジュール

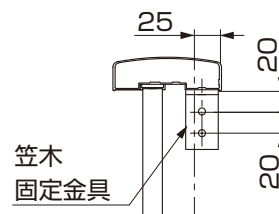
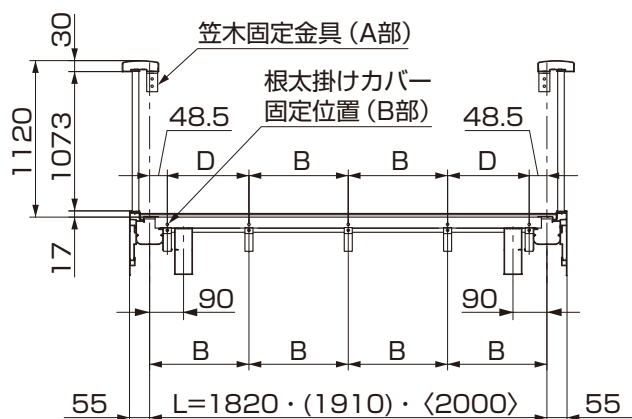


図1-3 A部詳細図

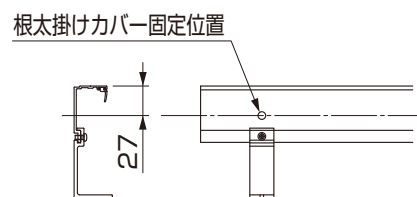
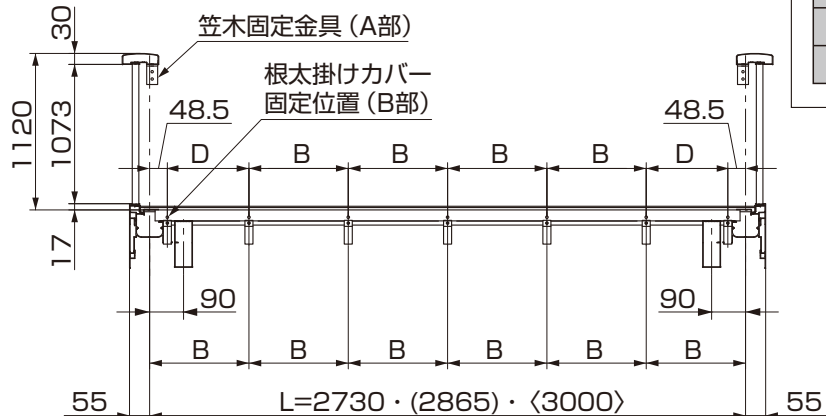


図1-4 B部詳細図

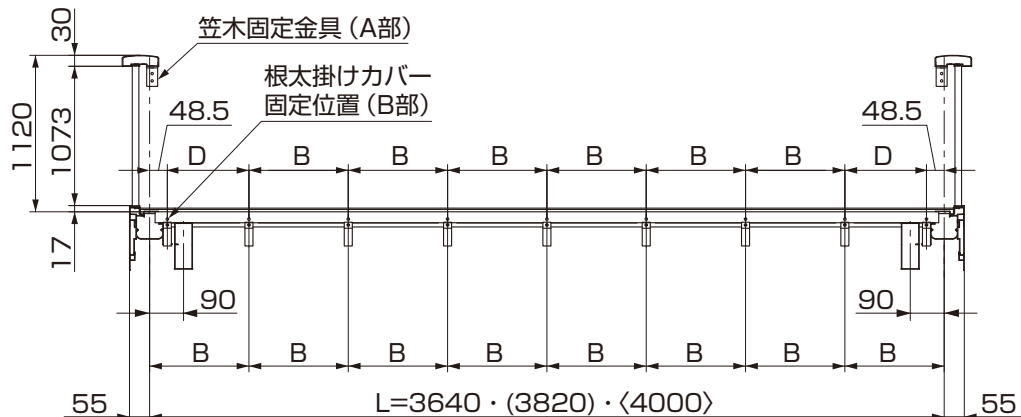
表1-2

サイズ	B	D
関東間	455	406.5
九州・四国間	477.5	429
メーターモジュール	500	451.5

● 1.5間



● 2.0間



①通気工法の場合、笠木固定金具と根太掛けカバー固定位置に下地材を入れてください。

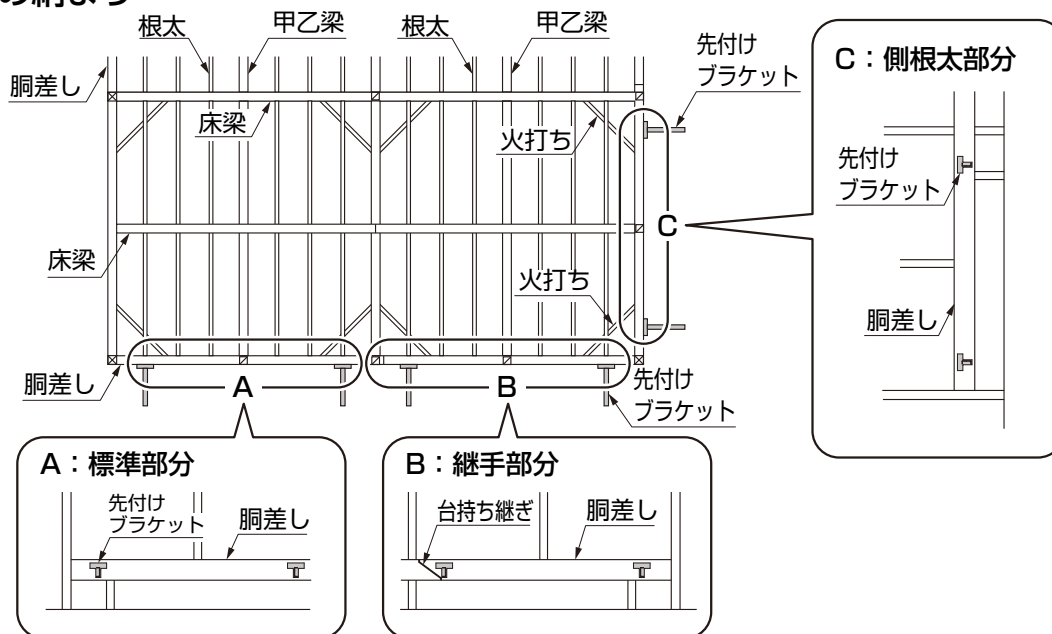
4 躯体の補強

● 胴差し納まり 在来工法

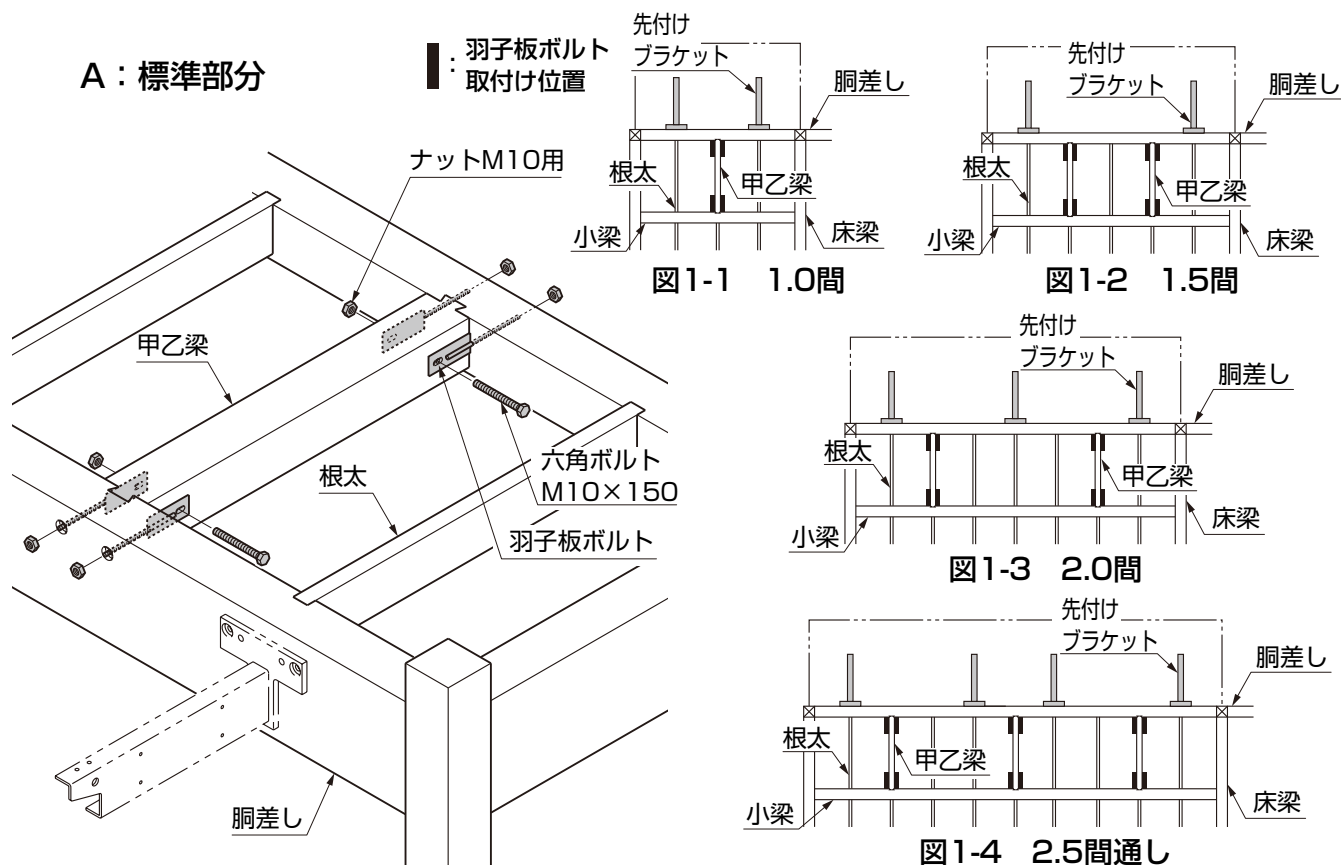
ポイント

- 先付けブラケット（胴差し用）を取付ける前に、下図のように必ず胴差しを補強してください。
- 取付け面により、補強方法が異なりますので確認してください。

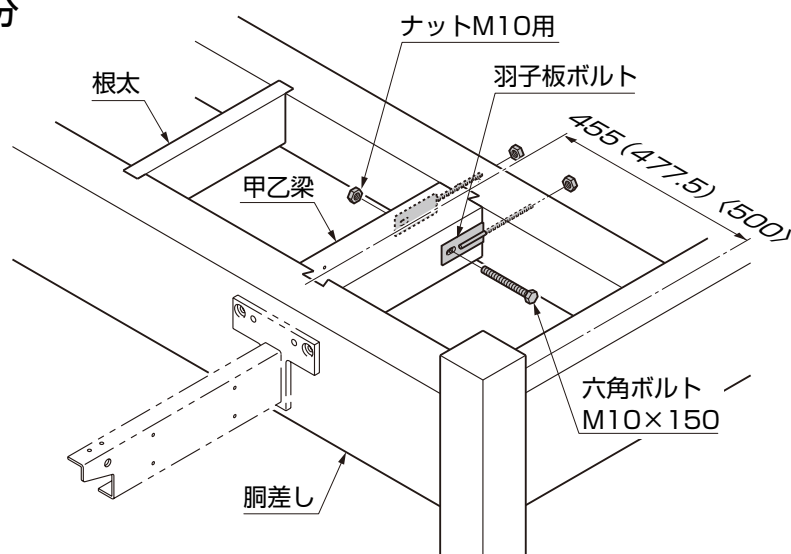
● 通常の納まり



● 甲乙梁による補強 (甲乙梁105×105以上)



● 甲乙梁による補強 (甲乙梁105×105以上) ※ () 内寸法は九州・四国間
※ 〈 〉 内寸法はメーターモジュール
B : 継手部分
C : 側根太部分



B : 継手部分

羽子板ボルト
取付け位置

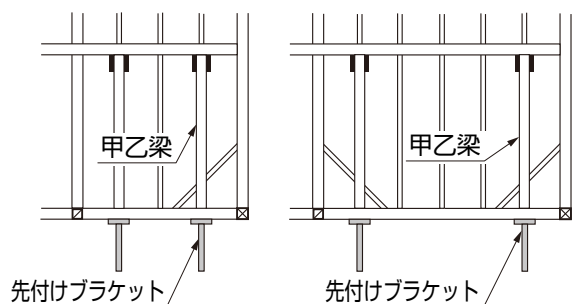


図1-5 1.0間

図1-6 1.5間

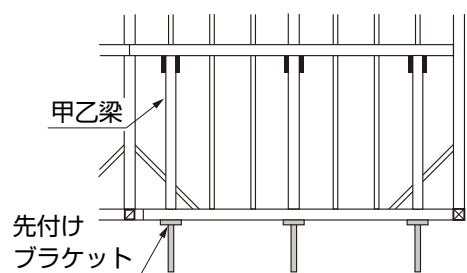


図1-7 2.0間

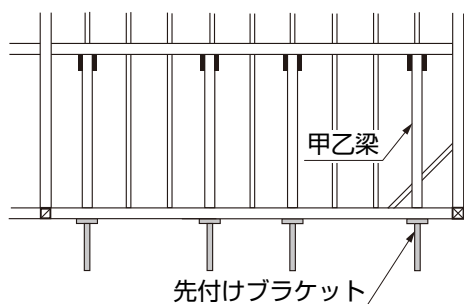


図1-8 2.5間通し

C : 側根太部分

羽子板ボルト
取付け位置

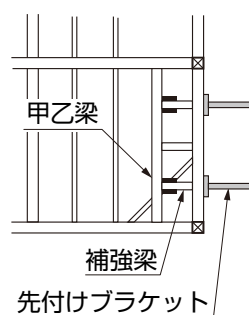


図1-9 1.0間

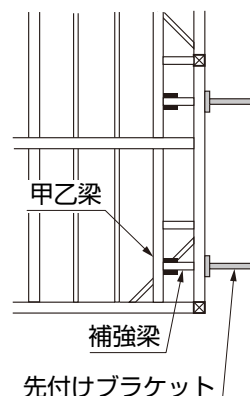


図1-10 1.5間

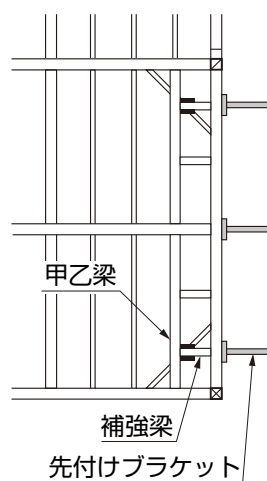


図1-11 2.0間

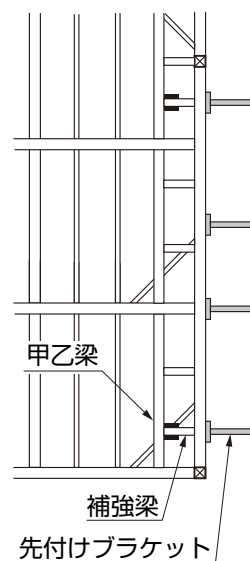


図1-12 2.5間通し

● 胴差し納まり 在来工法 (つづき)

● 補強アングルによる補強

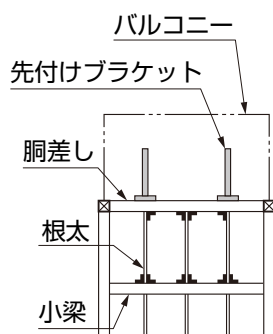
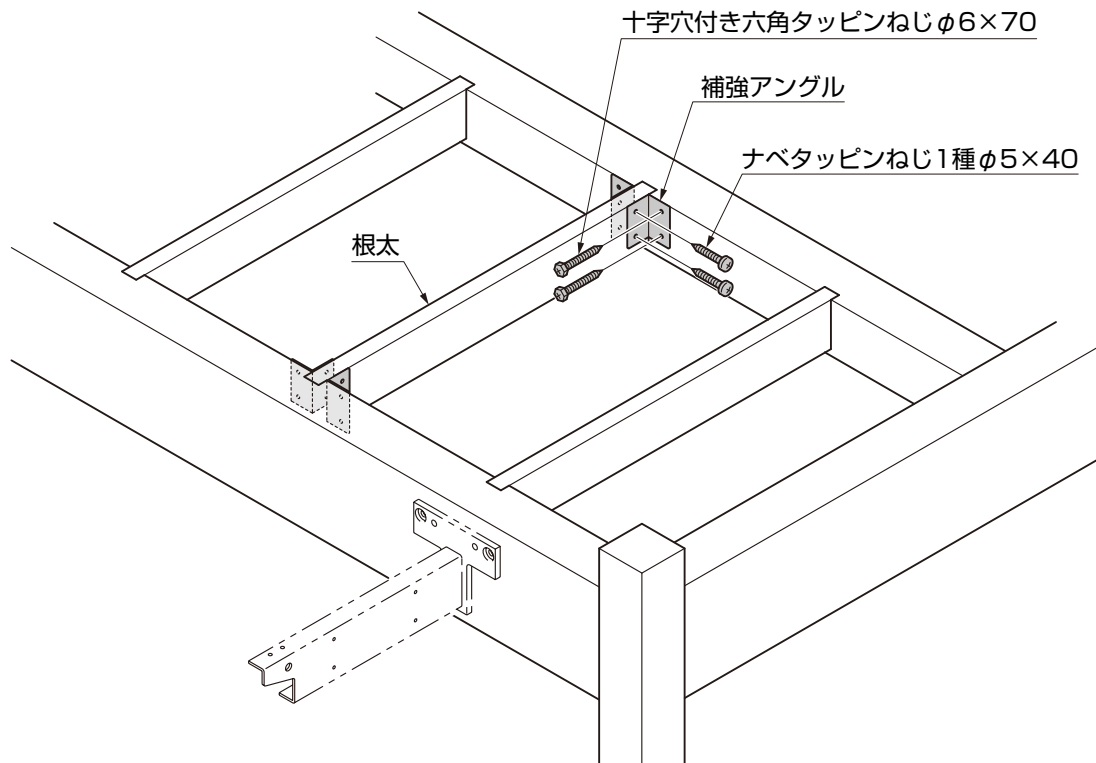


図1-13 1.0間

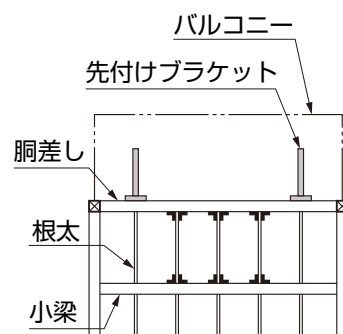


図1-14 1.5間

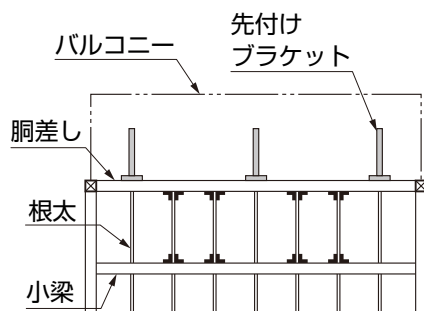


図1-15 2.0間

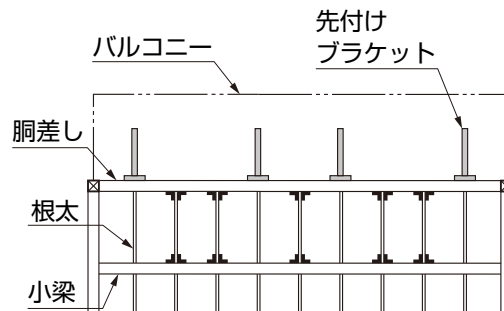


図1-16 2.5間通し

補強アングル
取付け位置

● 胴差し納まり 2×4工法

● ポイント

- 先付けブラケット（胴差し用）を取付ける前に、下図のように必ず躯体を補強してください。
- 取付け面により、補強方法が異なりますので確認してください。

● 端根太側の場合

● 躯体補強金具による補強

L : 躯体補強金具 ※ () 内寸法は九州・四国間
 取付け位置 ※ 〈 〉 内寸法はメーターモジュール

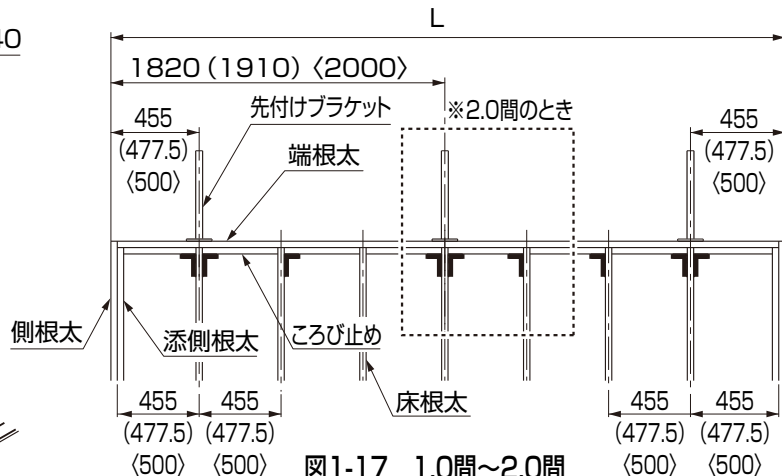
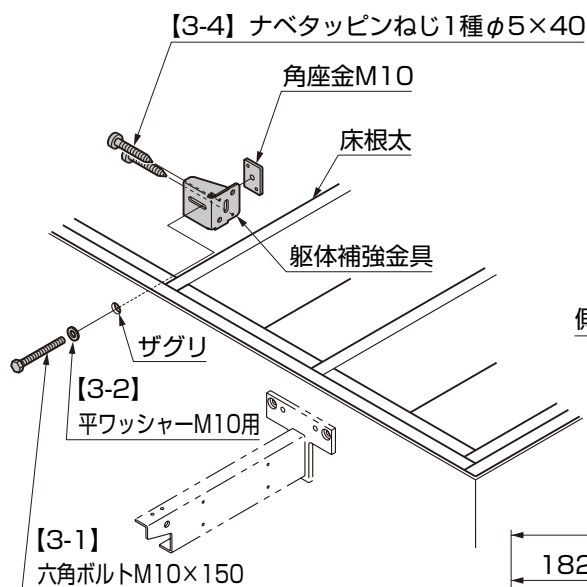


図1-17 1.0間～2.0間

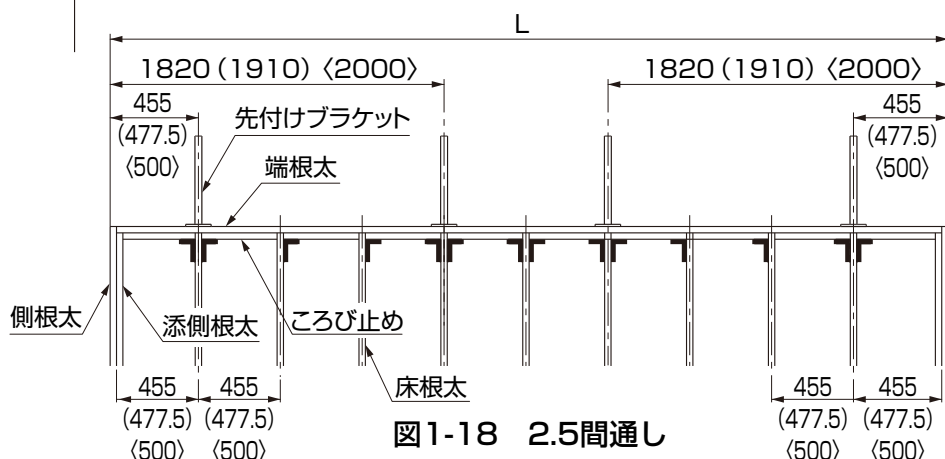
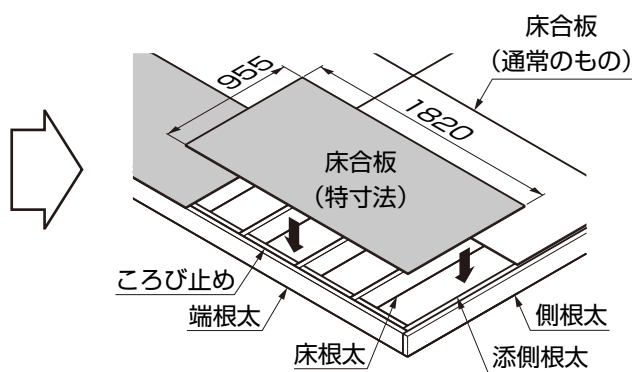
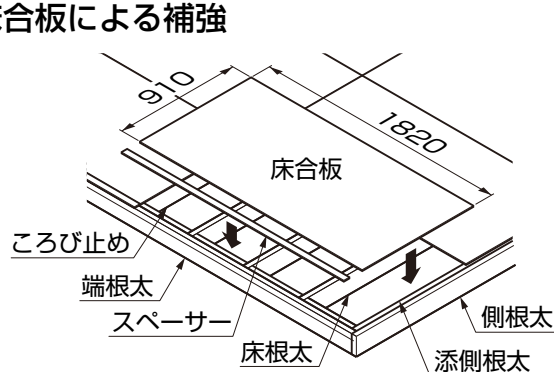


図1-18 2.5間通し

① 床根太に躯体補強金具を取付けてください。

● 床合板による補強



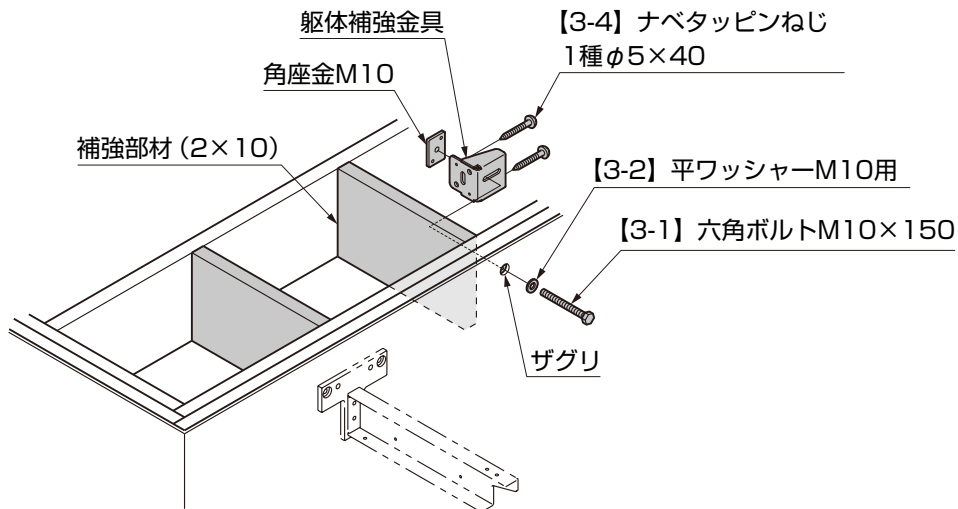
① 通常の床合板 (910×1820) とスペーサーのかわりに、特寸法の床合板を使用し、床合板と端根太を釘止めしてください。

● ポイント

- この場合、躯体補強金具は必要ありません。

● 胴差し納まり 2×4工法（つづき）

● 側根太側の場合



補強部材 (2×10)
取付け位置

躯体補強金具
取付け位置

※ () 内寸法は九州・四国間

※ < > 内寸法はメーターモジュール

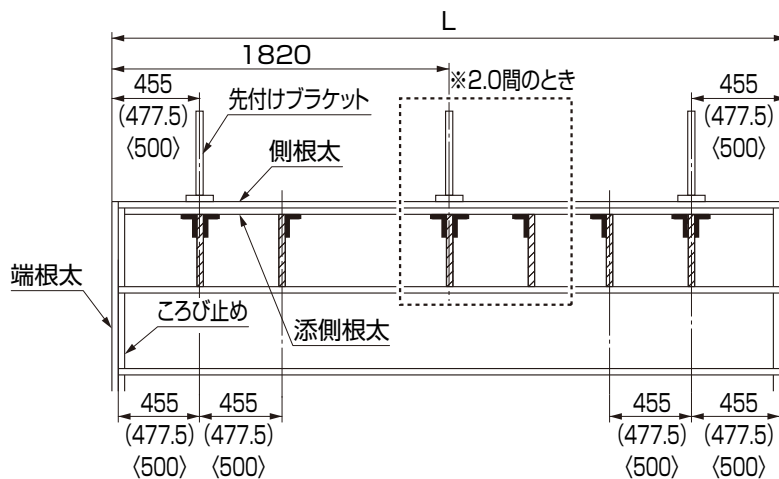


図1-19 1.0間～2.0間

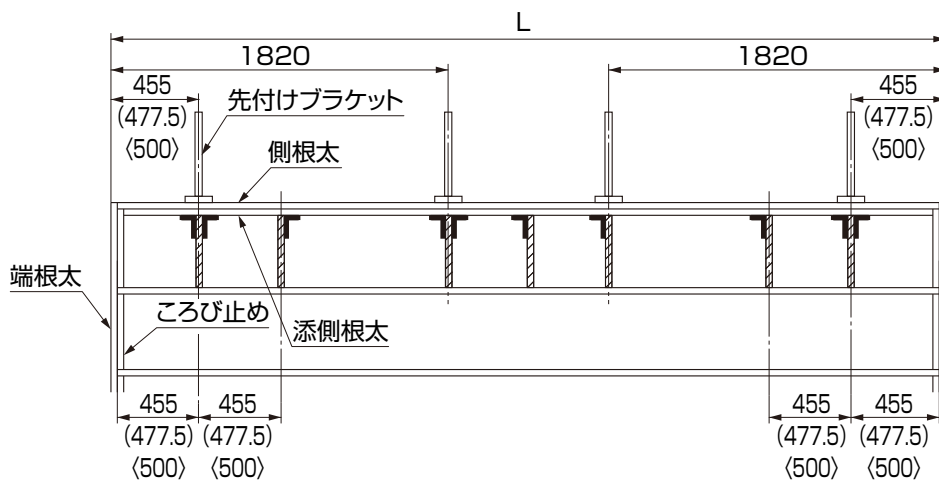


図1-20 2.5間通し

①上図の位置に、補強部材 (2×10) と躯体補強金具を取付けてください。

● 柱芯納まり 在来工法

ポイント

- 先付けブラケット（柱芯用）を取付ける前に、下図のように必ず柱を補強してください。
- Lアングルは現場で手配してください。
- カイ木を取付ける際は、カイ木の下端が先付けブラケットアーム部センターより下の位置にくるようにしてください。（※1）

● 通し柱の場合

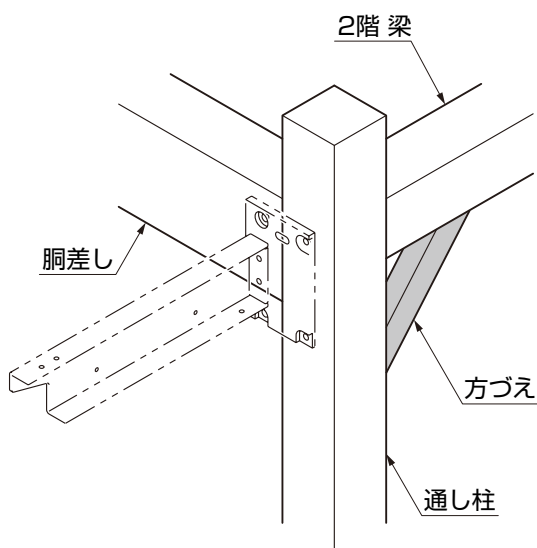


図1-21 方づえでの補強

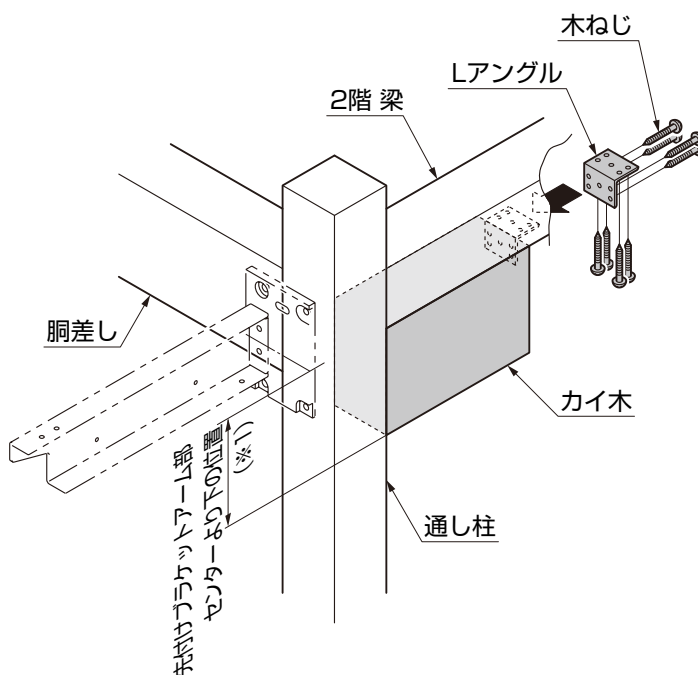


図1-22 カイ木での補強

● くだ柱の場合

ポイント

- 躯体補強金具が付く部分にはLアングル補強は不要です。

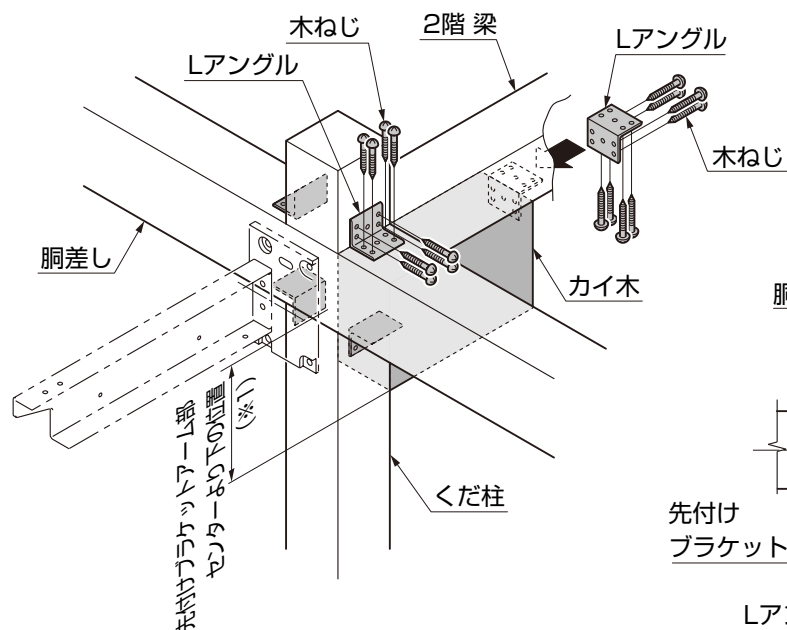


図1-23 正面図

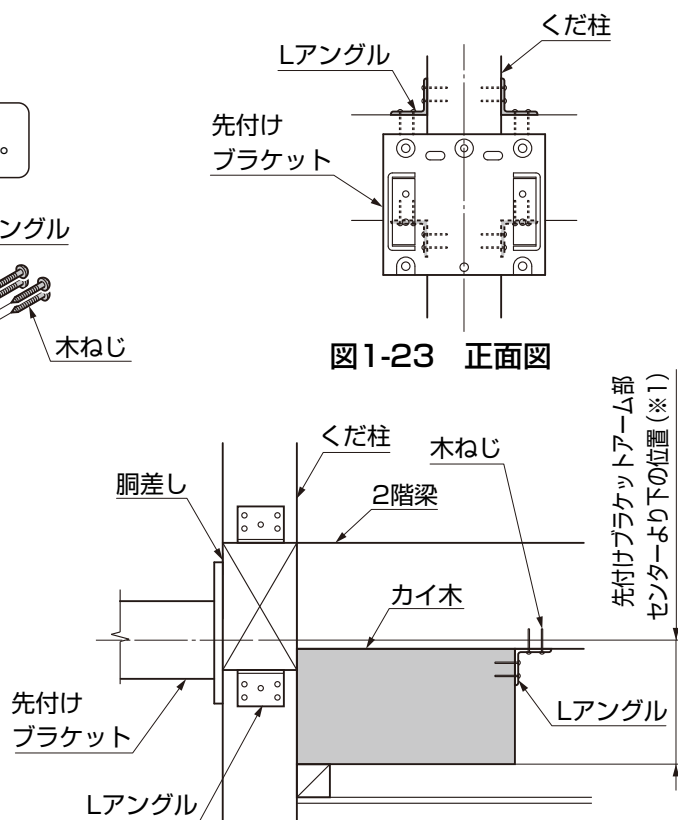


図1-24 側面図

5 先付けブラケット取付け位置確認

1 取付け位置の確認

1 標準納まり

- 胴差し納まり ※ () 内寸法は九州・四国間
※ < > 内寸法はメーターモジュール

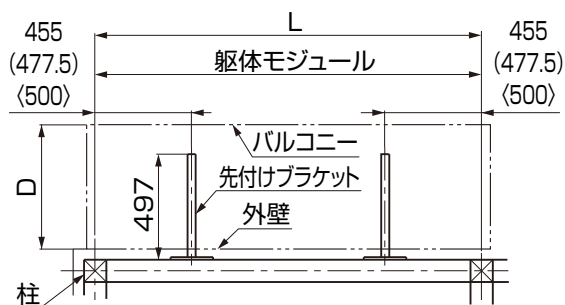


図1-1 1.0間、1.5間 単体

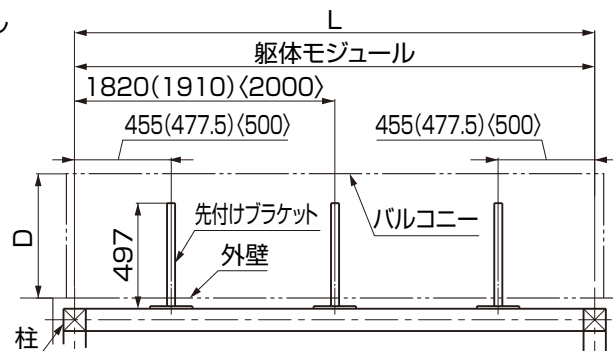


図1-2 2.0間 単体

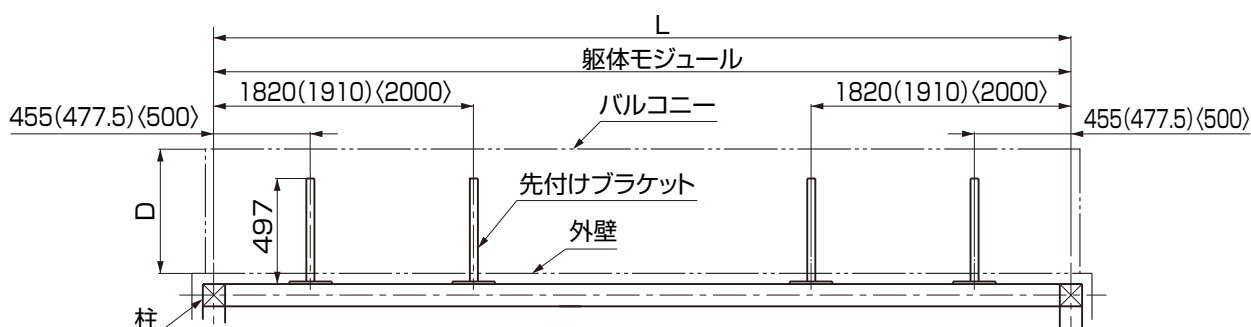


図1-3 2.5間通し

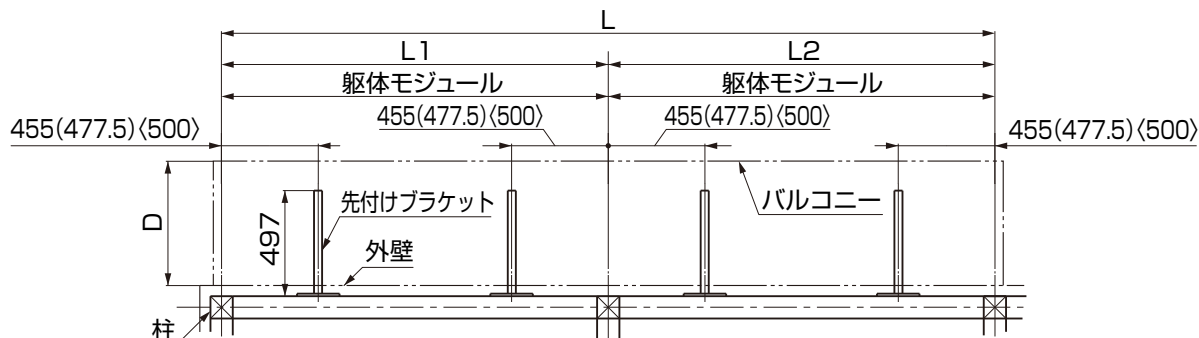


図1-4 2.5間、3.0間 連棟

表1-1

長さ	L (間口寸法)								D (出幅寸法)	
	単体				連棟				2R	3R
	1.0間	1.5間	2.0間	2.5間通し	2.5間	3.0間	3.5間	4.0間		
関東間	1820	2730	3640	4550	4550	5460	6370	7280		
九州・四国間	1910	2865	3820	4775	4775	5730	6685	7640	585	885
メーターモジュール	2000	3000	4000	5000	5000	6000	7000	8000		

①先付けブラケットの正確な取付け位置を決めてください。

ポイント

- 外壁仕上げ後では、位置の変更はできません。
- 納まり図も参照してください。
- L1・L2は単体の間口寸法を示します。
- 3.5間、4.0間の先付けブラケット取付け位置は単体1.5間、2.0間の組み合わせとなります。
- 2.5間通しの連棟はできません。

●柱芯納まり

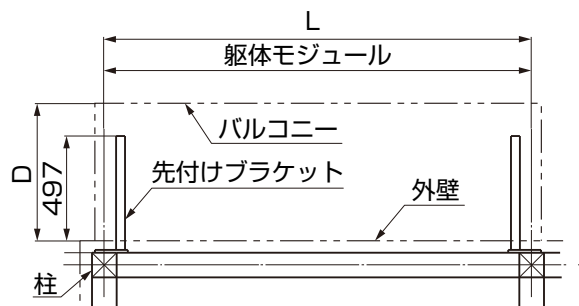


図1-5 単体

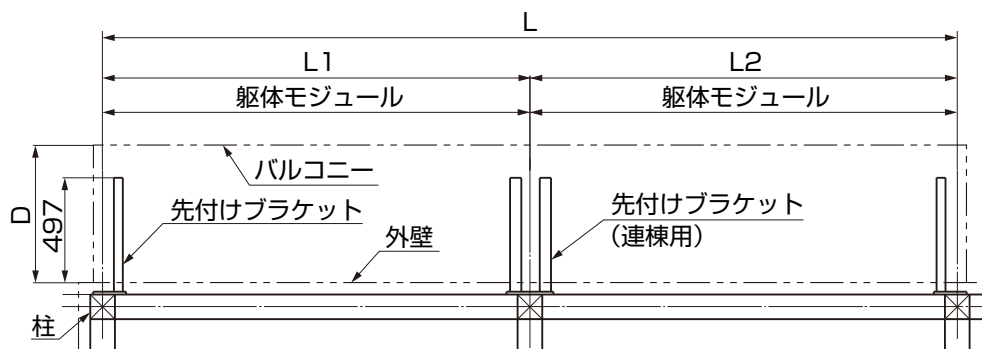


図1-6 連棟

表1-2

長 さ	L (間口寸法)							D (出幅寸法)	
	単体			連棟				2尺	3尺
	1.0間 (2000)	1.5間 (3000)	2.0間 (4000)	2.5間 (5000)	3.0間 (6000)	3.5間 (7000)	4.0間 (8000)		
関東間	1820	2730	3640	4550	5460	6370	7280		
九州・四国間	1910	2865	3820	4775	5730	6685	7640	585	885
メーターモジュール	2000	3000	4000	5000	6000	7000	8000		

①先付けブラケットの正確な取付け位置を決めてください。

ポイント

- 外壁仕上げ後では、位置の変更はできません。
- 納まり図も参照してください。
- L1・L2は単体の間口寸法を示します。
- 3.5間、4.0間の先付けブラケット取付け位置は単体1.5間、2.0間の組み合わせとなります。

1 取付け位置の確認 (つづき)

2 袖、出入隅納まり

- 胴差し納まり ※ () 内寸法は九州・四国間
※ 〈 〉 内寸法はメーターモジュール

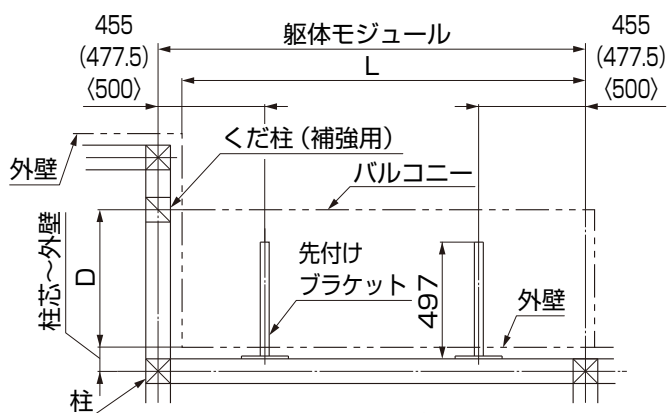


図1-7 片袖納まり

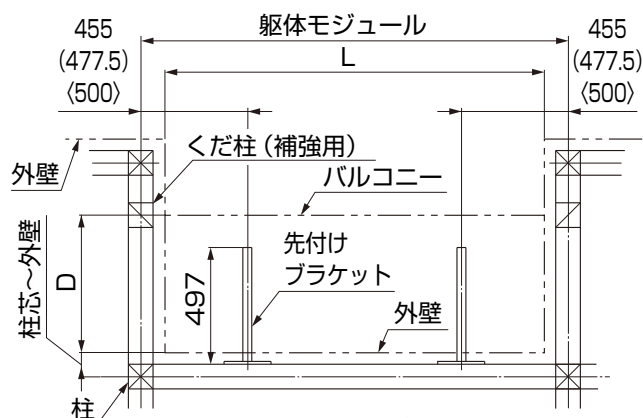


図1-8 両袖納まり

● 柱芯納まり

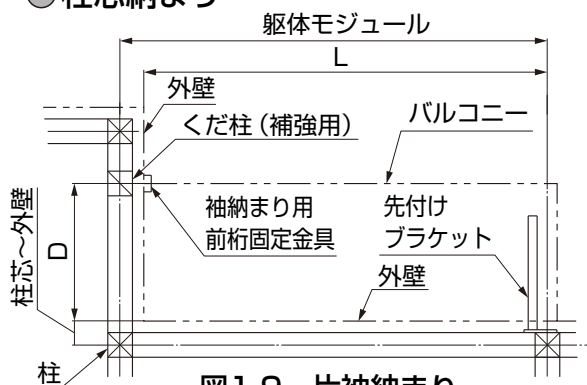


図1-9 片袖納まり

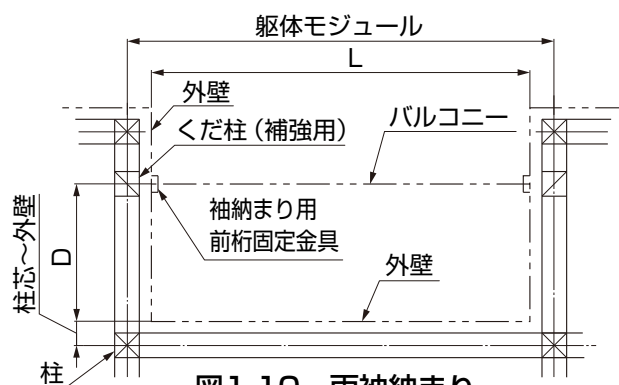


図1-10 両袖納まり

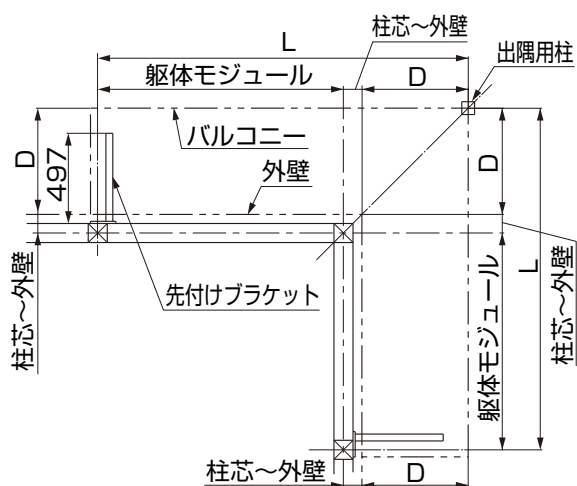


図1-11 出隅納まり

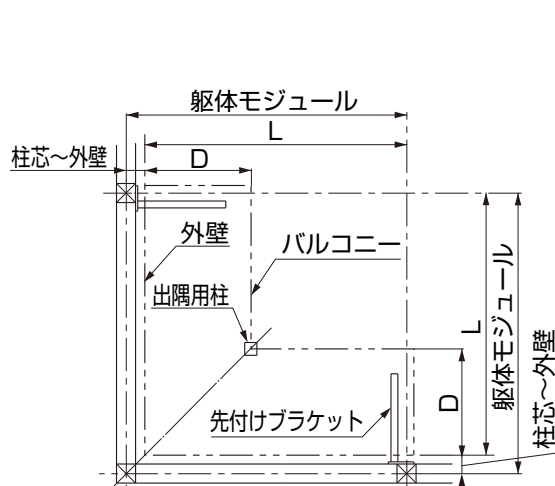


図1-12 入隅納まり

① 先付けブラケットの正確な取付け位置を決めてください。

ポイント

- 外壁仕上げ後では、位置の変更はできません。
- 納まり図も参照してください。
- 片袖納まり・両袖納まりの2.0間、2.5間通し中間部のブラケット位置は標準納まりを参照してください。
- 出隅納まり・入隅納まりは柱芯納まりのみとなります。
- D、L寸法についてはP.22 表1-1を参照してください。

2 取付け穴位置の確認

● 胴差し納まり

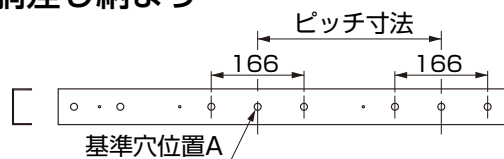


図2-1 ブラケット取付けゲージ

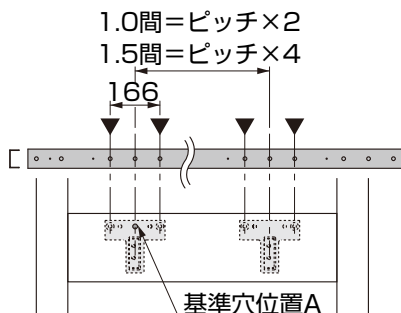


図2-2 1.0間、1.5間

表2-1

呼称	ピッチ
関東間	455
メーター	500
九州四国間	477.5

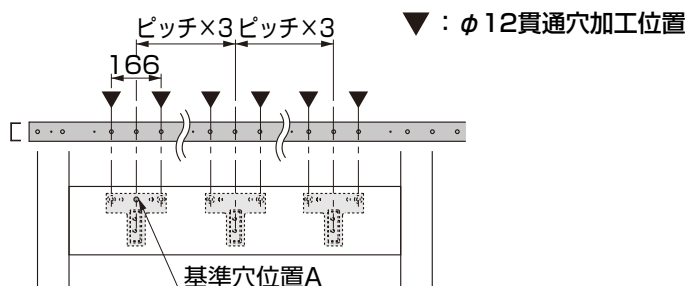


図2-3 2.0間

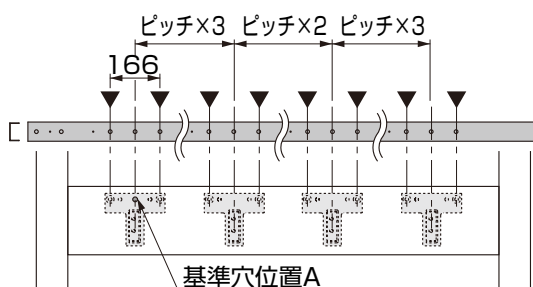


図2-4 2.5間通し

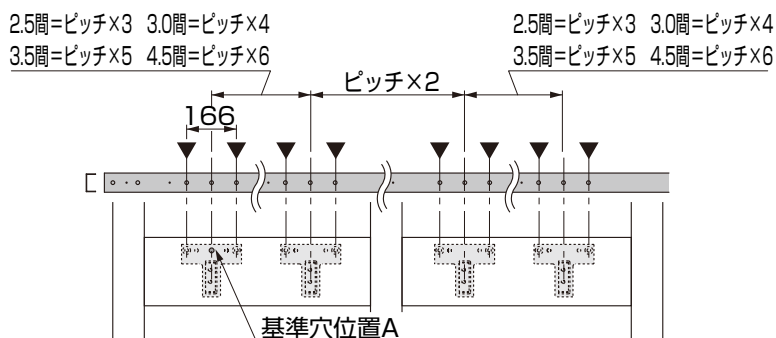


図2-5 連棟

- ①基準穴位置はAの箇所を使用してください。(図2-1参照)
- ②各間口に合わせたゲージ使用位置を確認してください。

● 柱芯納まり

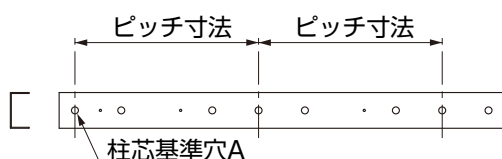


図2-6 ブラケット取付けゲージ

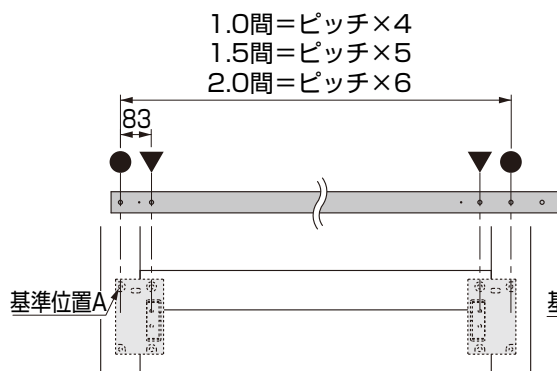


図2-7 柱芯納まり 単体

表2-2

呼称	ピッチ
関東間	455
メーター	500
九州四国間	477.5

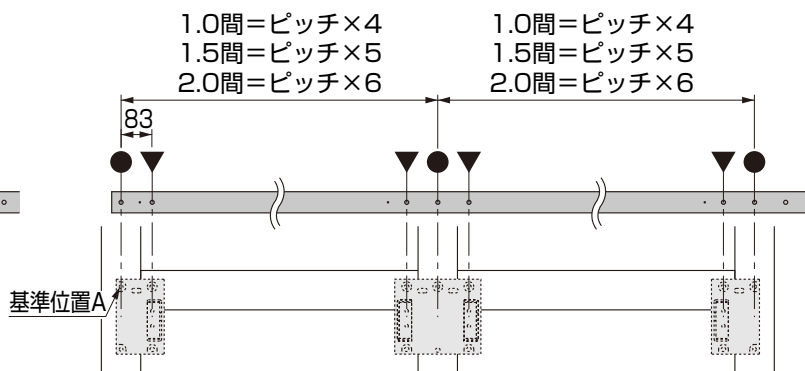


図2-8 柱芯納まり 連棟

- ①基準穴位置はAの箇所を使用してください。(図2-6参照)
- ②各間口に合わせたゲージ使用位置を確認してください。

- : $\phi 6.5$ 下穴(深さ50)加工位置
- ▼ : $\phi 12$ 貫通穴加工位置

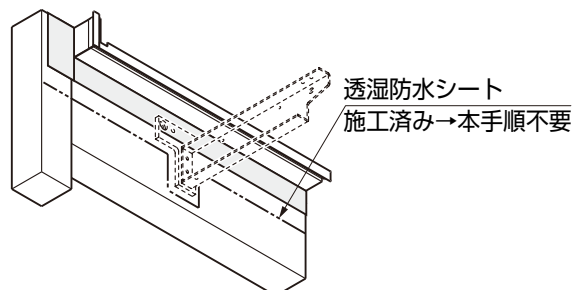
6 防水方法

⚠ 注意

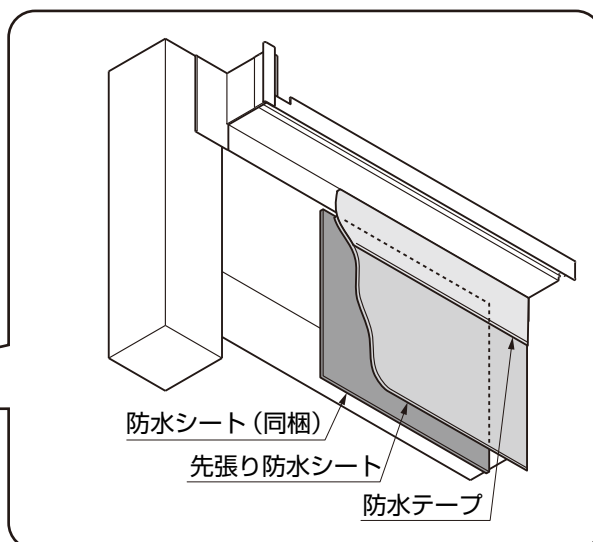
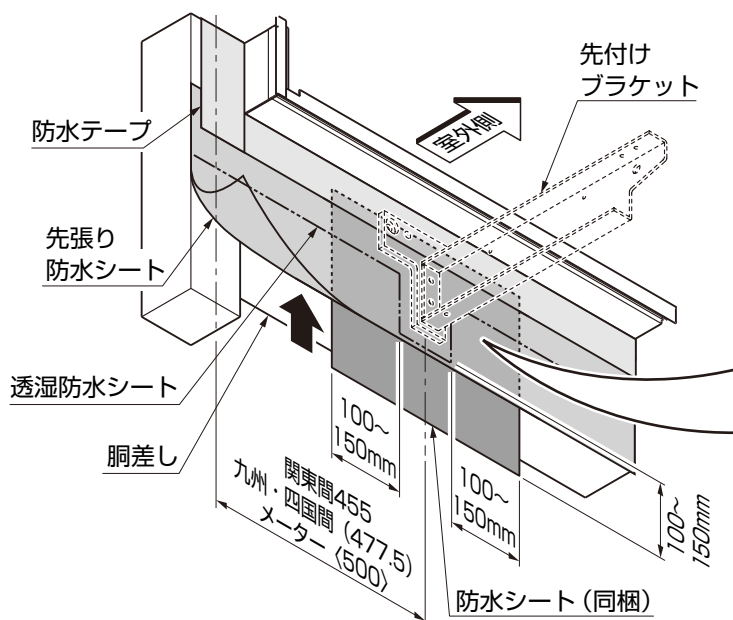
- 漏水のおそれがありますので、サッシの下に先付けブラケットを取付ける場合は、必ずサッシ枠まわりの防水テープ工事後にブラケットを取付けてください。

🔑 ポイント

- サッシ枠（屋外側）の釘打ちフィン部分の防水処理後に先付けブラケットを取付けてください。
- すでに外壁の透湿防水シートが施工されている場合は、本手順は不要です。
- 外壁の透湿防水シートを後から施工する場合は、左右・下ともに100～150mm程度の重ねができるようにしてください。

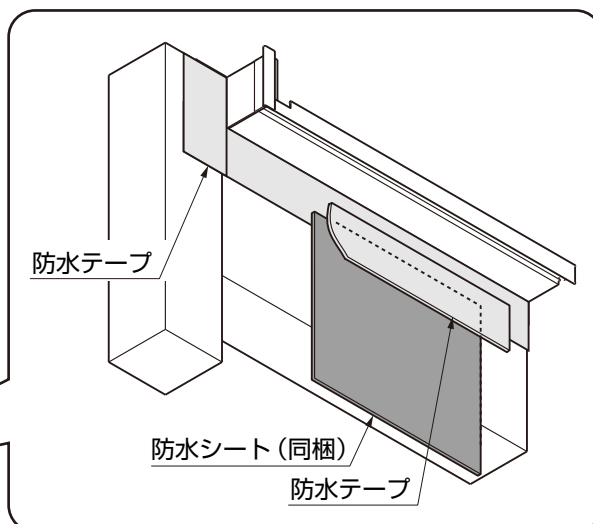
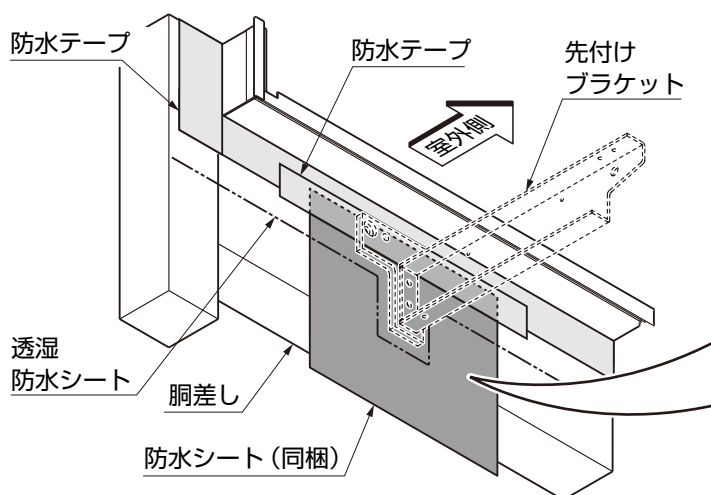


●先張り防水シートが取付いている場合



- ①防水シートを先張り防水シートと胴差しのすき間から差込んでください。

●先張り防水シートが取付いていない場合



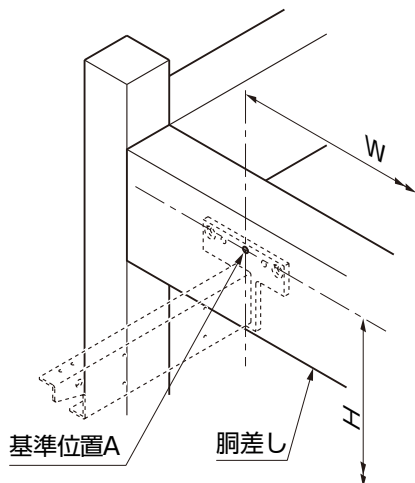
- ①防水シートを防水テープで貼付けてください。

7 先付けブラケットの取付け

● 胴差し納まり

1 先付けブラケットの仮組み

1 取付け用穴位置の確認

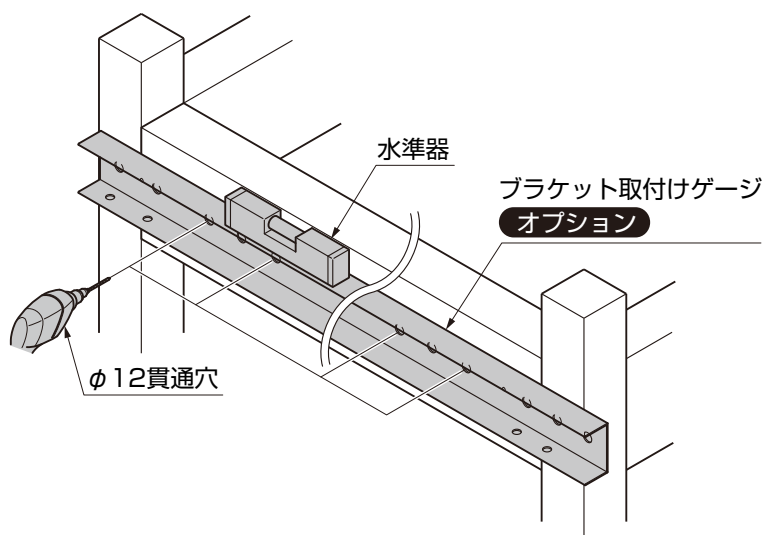


- ①先付けブラケットを取付ける基準位置Aを確認し、印をつけてください。
(P.25参照)

ポイント

- Aの位置が基準位置となります。

2 穴加工



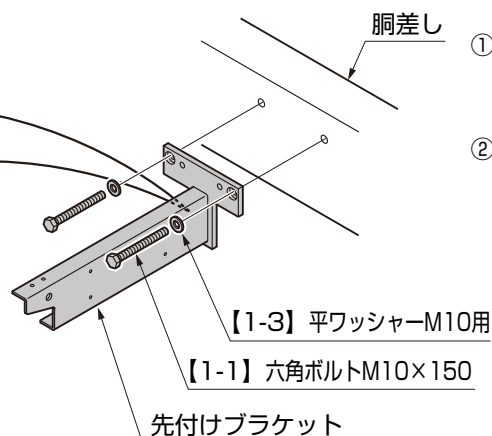
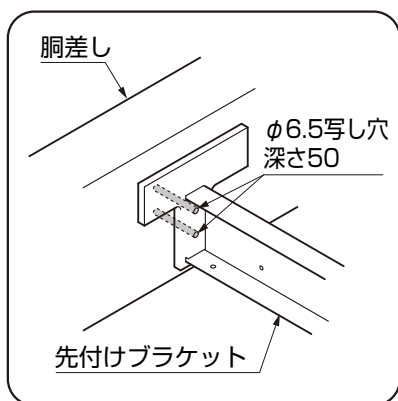
- ①基準位置Aにブラケット取付けゲージの基準穴をあてがい、ブラケットの穴位置に印をつけてください。

ポイント

- 水準器などを用いて穴が水平になるようにしてください。
- 各納まりの取付け穴位置は「5 先付けブラケット取付け位置確認 2 取付け穴位置の確認」(P.25)を参照してください。

- ②必要な位置にφ12貫通穴(ブラケット取付け穴)をあけてください。

3 先付けブラケットの仮組み

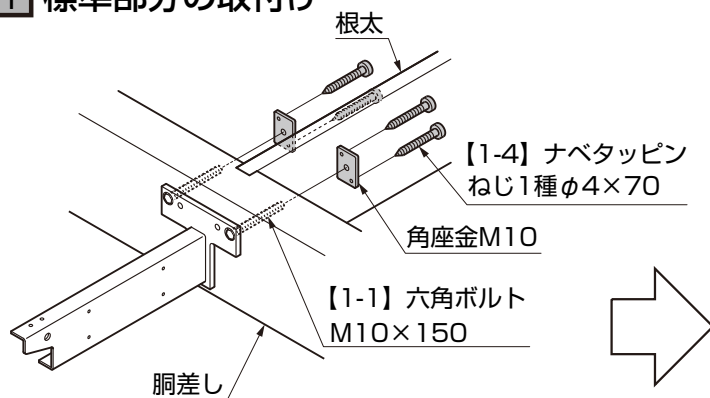


- ①先付けブラケットを胴差しに【1-3】、【1-1】で取付けてください。
- ②先付けブラケットの固定位置に写し穴(φ6.5下穴/深さ50)をあけてください。

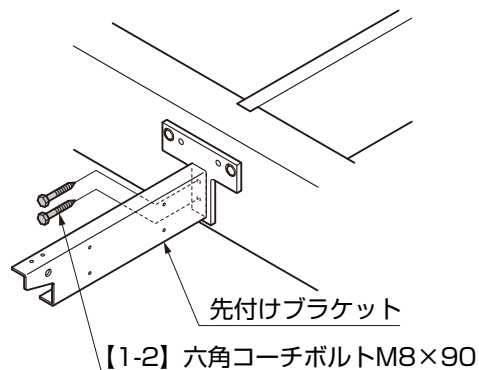
2 先付けブラケットの取付け

● 在来工法

1 標準部分の取付け

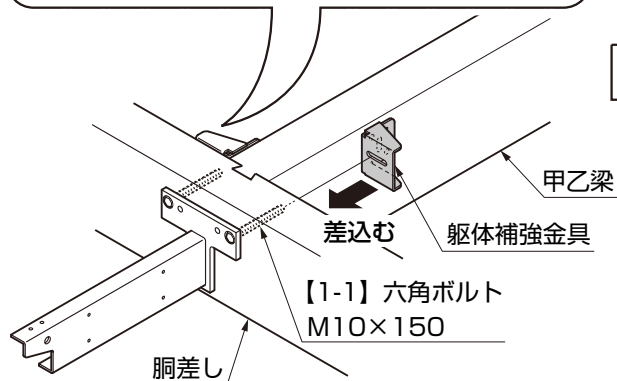
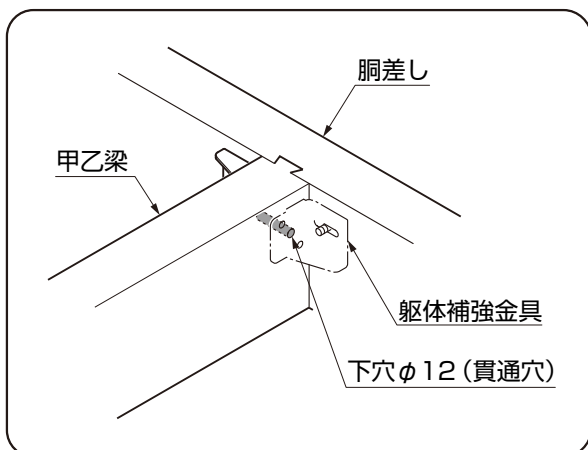


- ①角座金M10を仮組みした【1-1】に取付け、
【1-4】で固定してください。

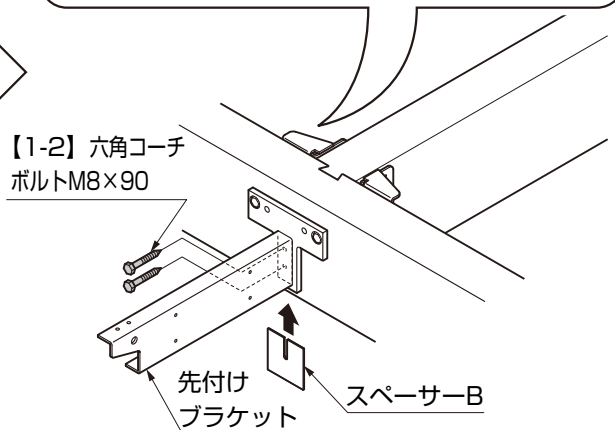
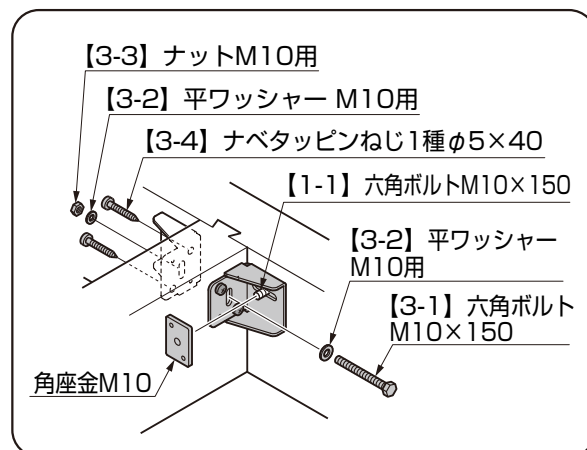


- ②先付けブラケットを胴差しに【1-2】で固定してください。

2 継ぎ手・側根太部分の取付け



- ①躯体補強金具を仮組みした【1-1】に差込んでください。
②甲乙梁に躯体補強金具の穴位置に合わせ印をつけてください。
③印をつけた位置にφ12の貫通穴をあけてください。



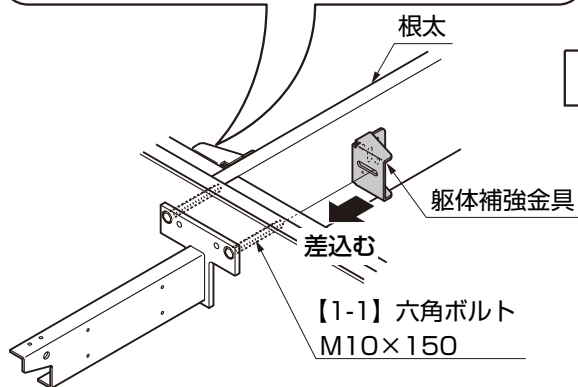
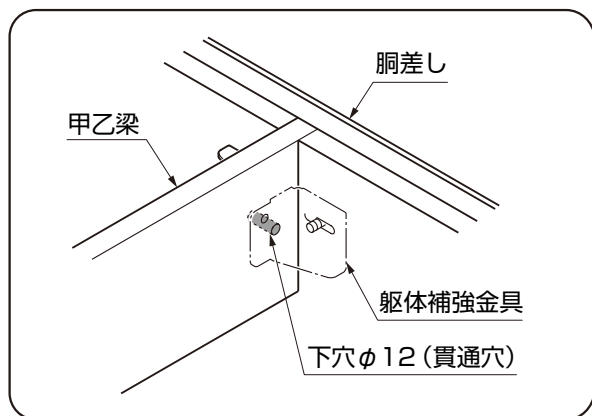
- ④躯体補強金具を角座金M10、【3-1】、【3-2】、
【3-3】、【3-4】で固定してください。
⑤先付けブラケットを胴差しに【1-2】で固定してください。

ポイント

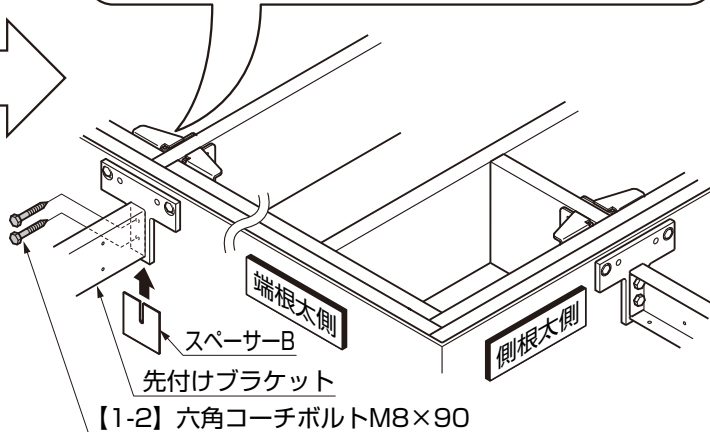
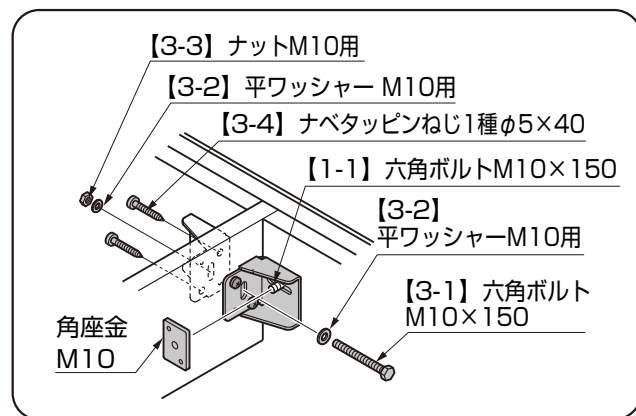
- スペーサーBはレベル調整として使用してください。詳細はP.37を参照してください。

●2×4工法

1 根太の補強



- ① 躯体補強金具を仮組みした【1-1】に差込んでください。
- ② 甲乙梁に躯体補強金具の穴位置に合わせ印をつけてください。
- ③ 印をつけた位置にφ12の貫通穴をあけてください。

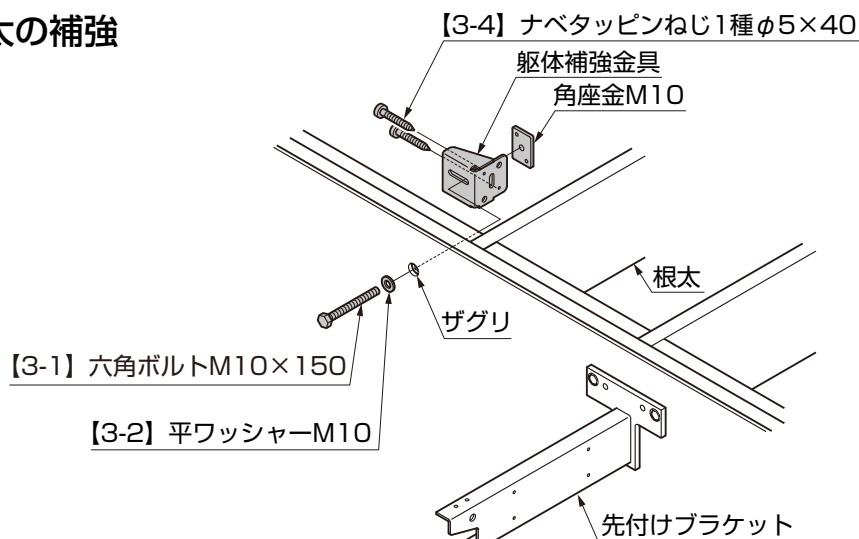


- ④ 躯体補強金具を角座金M10、【3-1】、【3-2】、【3-3】、【3-4】で固定してください。
- ⑤ 先付けブラケットを胴差しに【1-2】で固定してください。

ポイント

- スペース-Bはレベル調整として使用してください。詳細はP.37を参照してください。

2 根太の補強

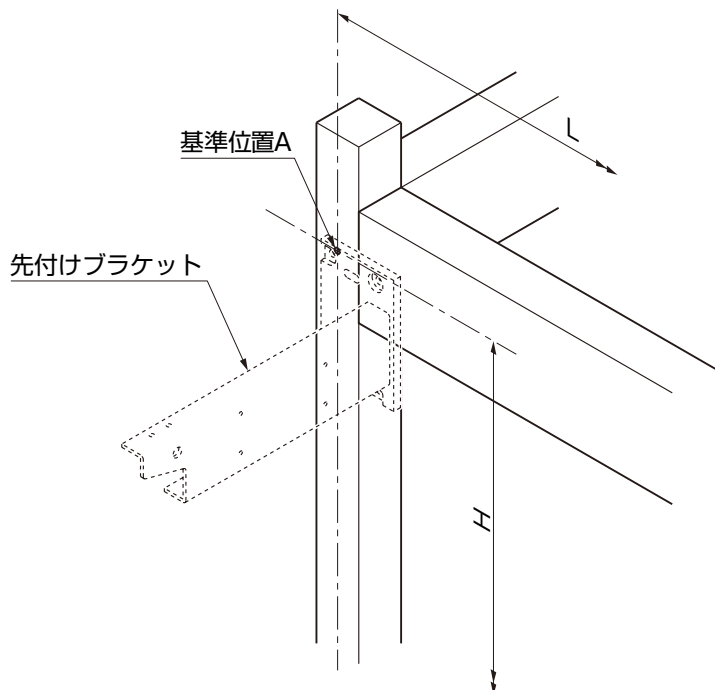


- ① 躯体補強金具を先付けブラケット直近の根太に、先付けブラケット側の躯体補強金具と同じ高さに合わせ【3-1】、【3-2】、【3-4】、角座金M10で取付けてください。

● 柱芯納まり

1 取付け穴の加工

1 取付け用穴位置の確認

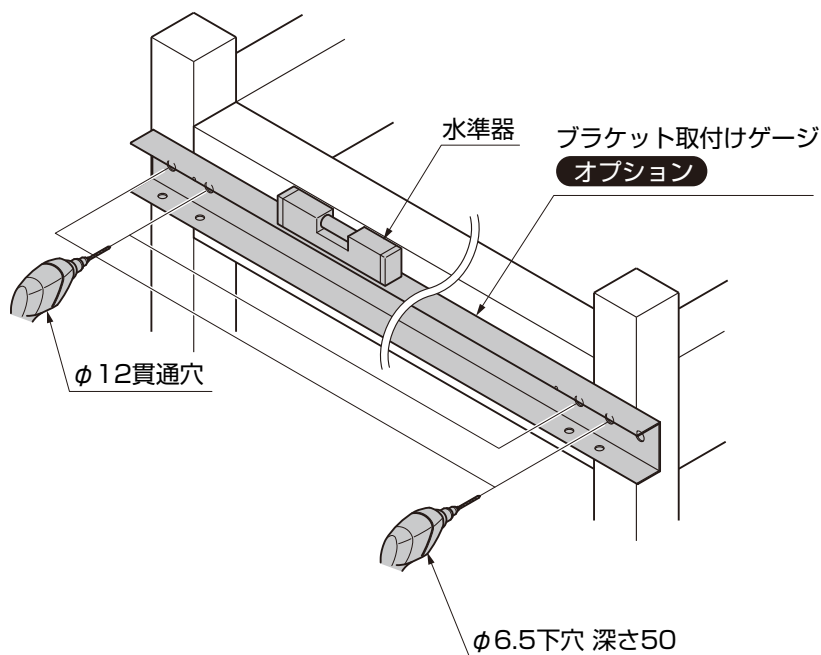


① 先付けブラケットを取付ける基準位置Aを確認し、印をつけてください。

🔑 ポイント

- Aの位置が基準位置となります。
- フルフラットタイプの場合は高さ位置が異なります。

2 穴加工



① 基準位置Aにブラケット取付けゲージの基準穴をあてがい、他ブラケットの穴位置に印をつけてください。

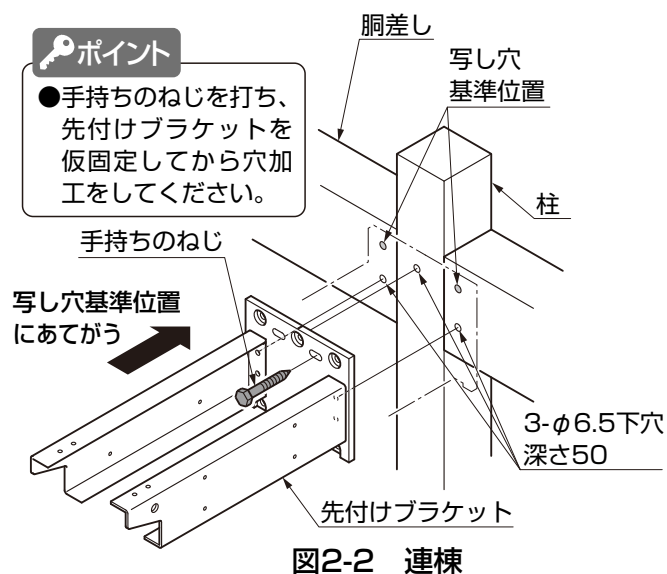
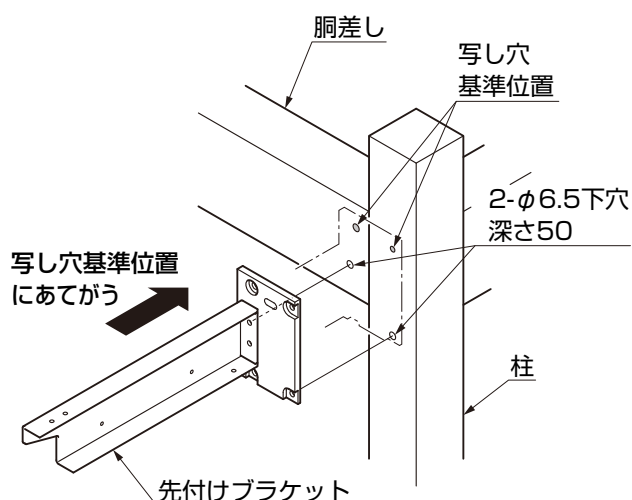
🔑 ポイント

- 水準器などを用いて穴が水平になるようにしてください。
- 各納まりの取付け穴位置は「5 先付けブラケット取付け位置確認 2 取付け穴位置の確認」(P.25)を参照してください。

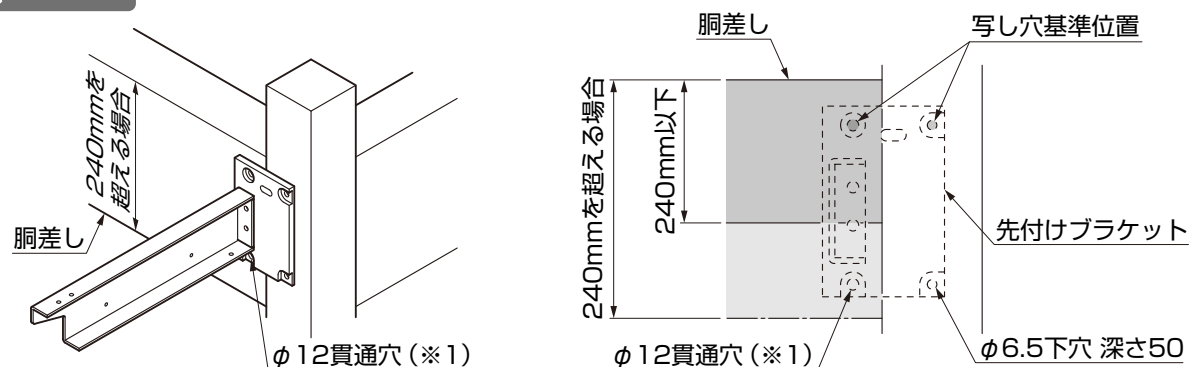
② 必要な位置にブラケット取付け穴(φ12貫通穴、φ6.5下穴/深さ50)をあけてください。

2 先付けブラケットの取付け

1 躯体への穴加工



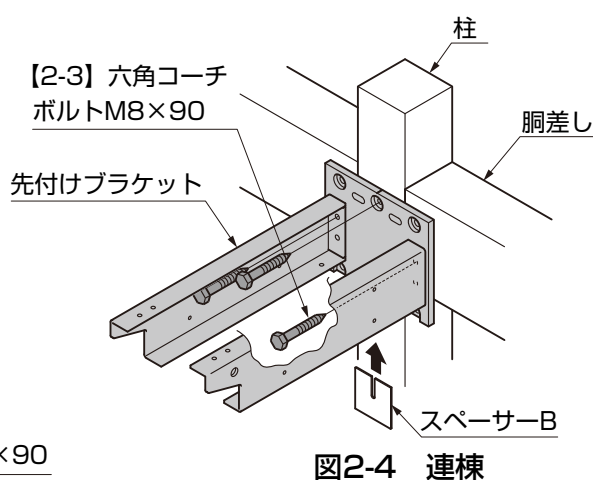
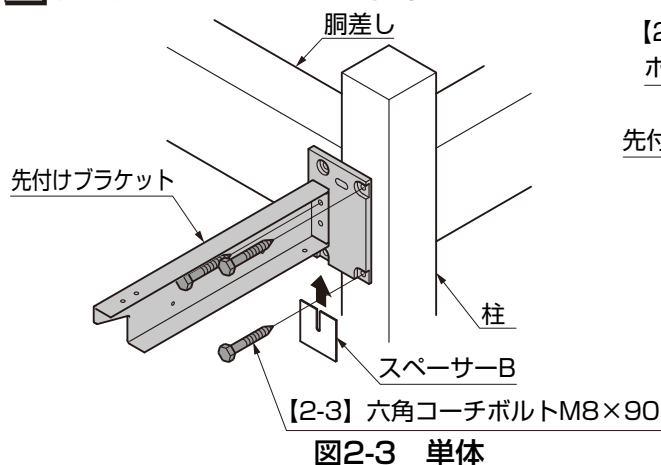
ポイント



- 胴差しが240mmを超える場合は、上図の位置に穴加工（φ12貫通穴）をしてください。（※1）
- 先付けブラケットが必ず水平になるように穴加工してください。

- ① 先付けブラケットを写し穴基準位置に合わせてください。
- ② 柱、胴差しに穴加工（φ6.5下穴/深さ50）をしてください。

2 先付けブラケットの仮組み



ポイント

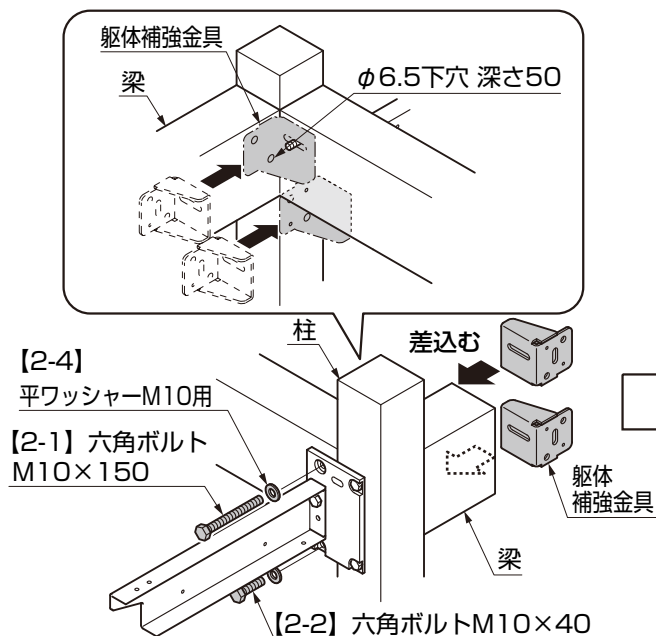
- スペーサーBはレベル調整として使用してください。詳細はP.37を参照してください。

2 先付けブラケットの取付け (つづき)

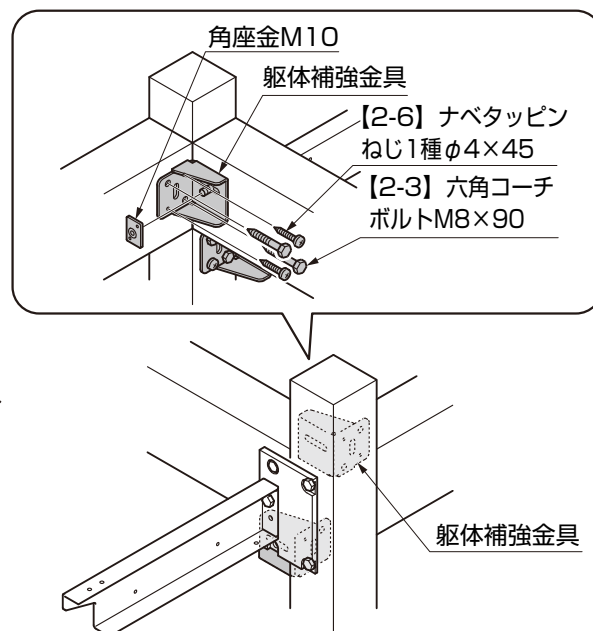
3 躯体補強金具の取付け

● 単体

【胴差しの高さが240mm以下の場合】

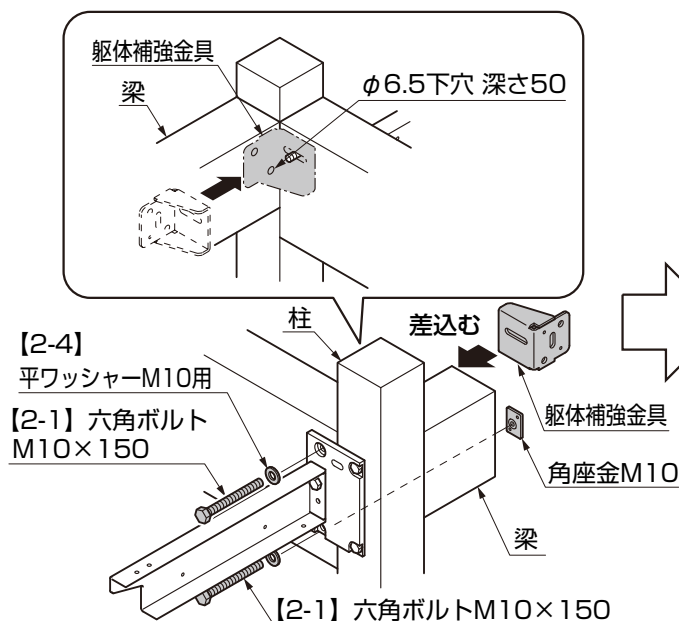


- ①先付けブラケットに【2-1】、【2-2】、【2-4】を差込み、躯体補強金具の位置を決めてください。
- ②梁、柱に躯体補強金具の穴位置に合わせて印をつけてください。
- ③印をつけた位置にφ6.5下穴/深さ50の穴加工をしてください。

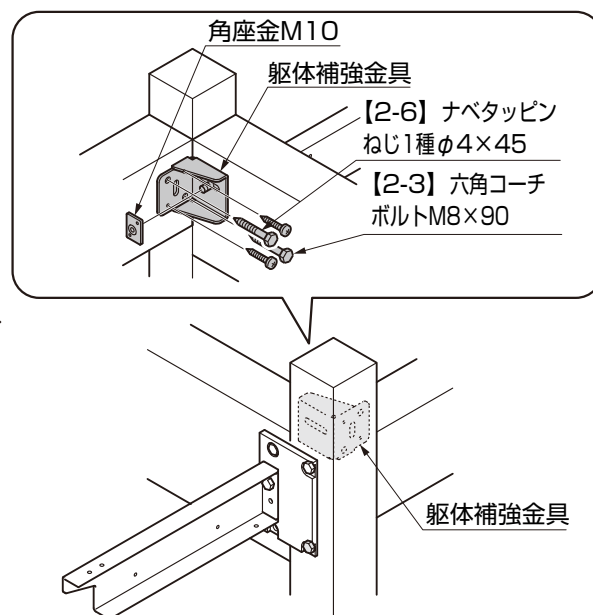


- ④躯体補強金具を柱と梁に【2-3】、【2-6】で取付けてください。
- ⑤躯体補強金具を角座金M10で固定してください。

【胴差しの高さが240mmを超えるの場合】



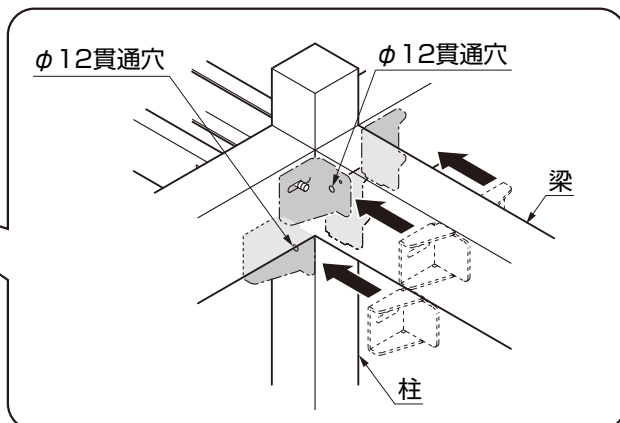
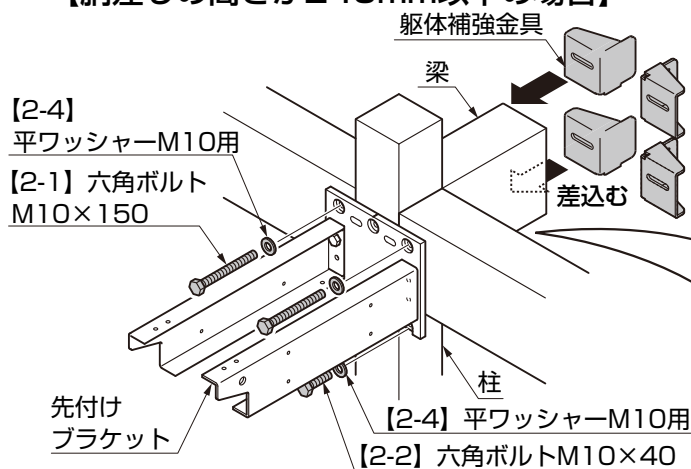
- ①先付けブラケットに【2-1】、【2-4】を差込み、躯体補強金具の位置を決めてください。
- ②梁、柱に躯体補強金具の穴位置に合わせて印をつけてください。
- ③印をつけた位置にφ6.5下穴/深さ50の穴加工をしてください。



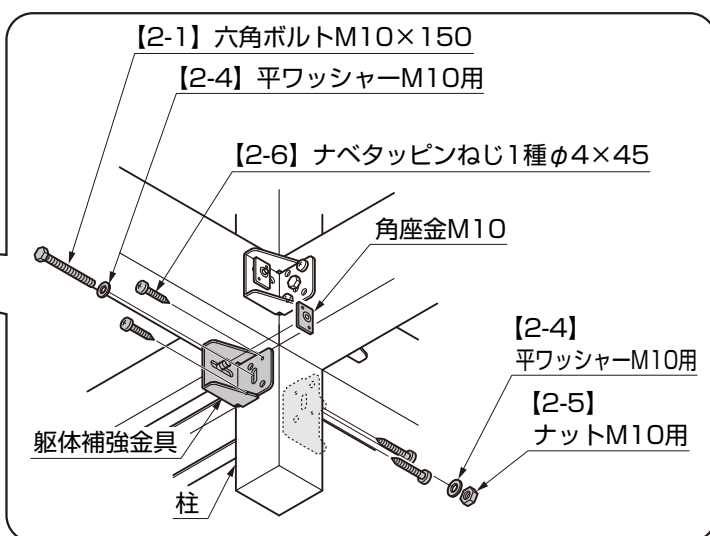
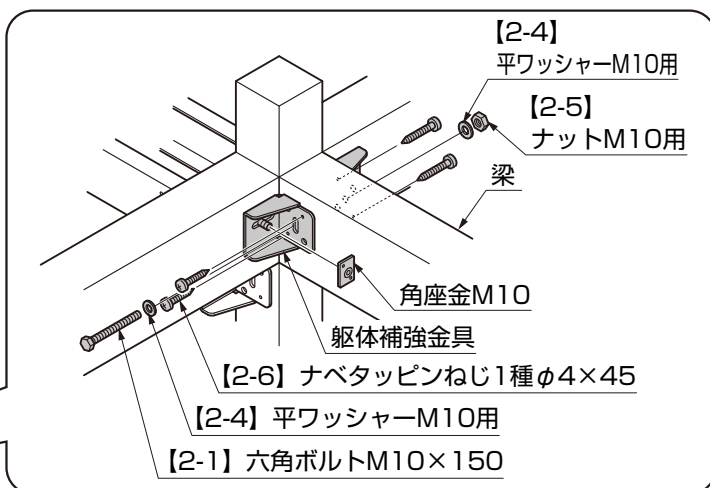
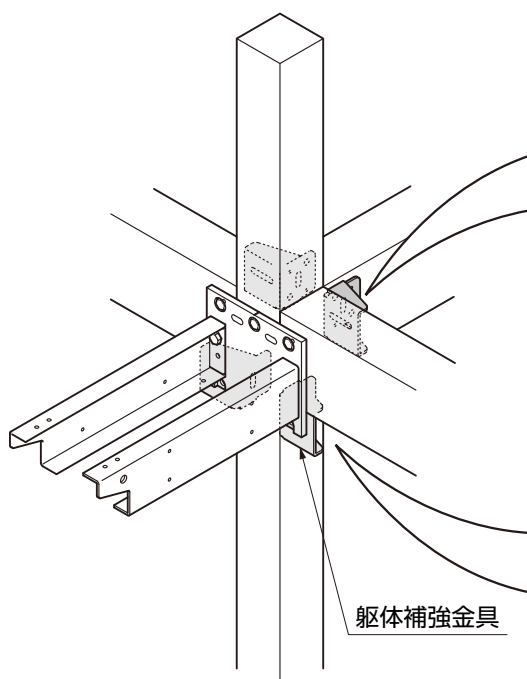
- ④躯体補強金具を柱と梁に【2-3】、【2-6】で取付けてください。
- ⑤躯体補強金具を角座金M10で固定してください。

● 連棟

【胴差しの高さが240mm以下の場合】



- ①先付けブラケットに【2-1】、【2-2】、【2-4】を差込み、躯体補強金具の位置を決めてください。
- ②梁、柱に躯体補強金具の穴位置に合わせて印をつけてください。
- ③印をつけた位置に12φ貫通穴の穴加工をしてください。



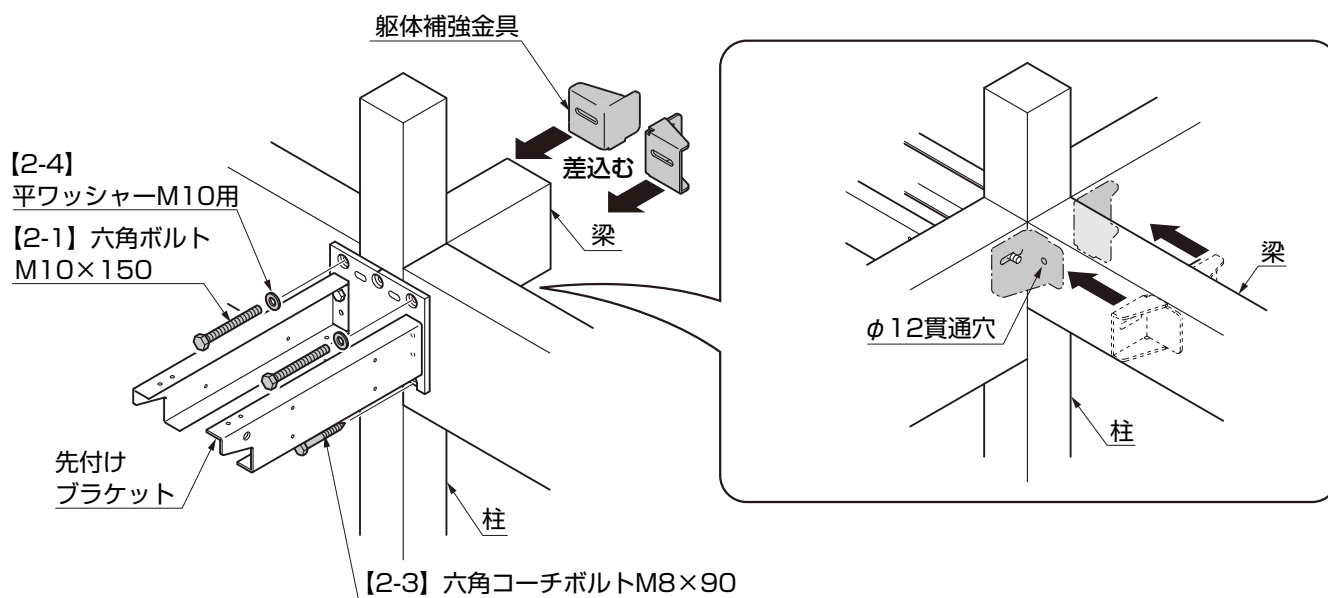
- ④躯体補強金具を柱と梁に【2-1】、【2-4】、【2-5】、【2-6】で取付けてください。
- ⑤躯体補強金具を角座金 M10 で固定してください。

2 先付けブラケットの取付け（つづき）

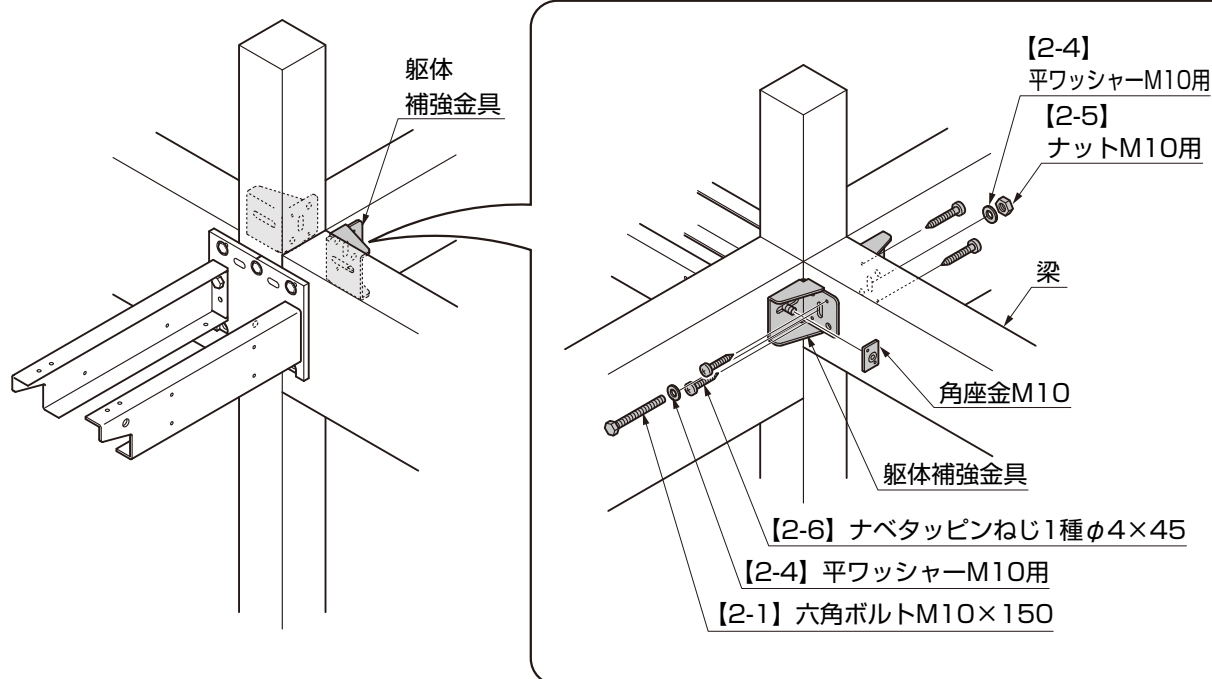
3 躯体補強金具の取付け（つづき）

● 連棟（つづき）

【胴差しの高さが240mmを超える場合】

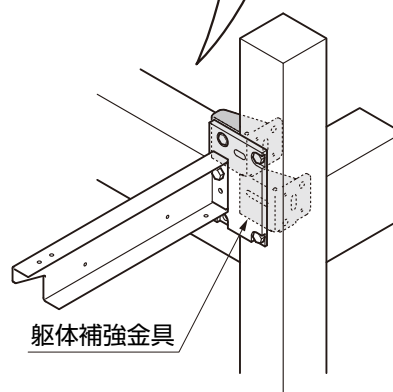
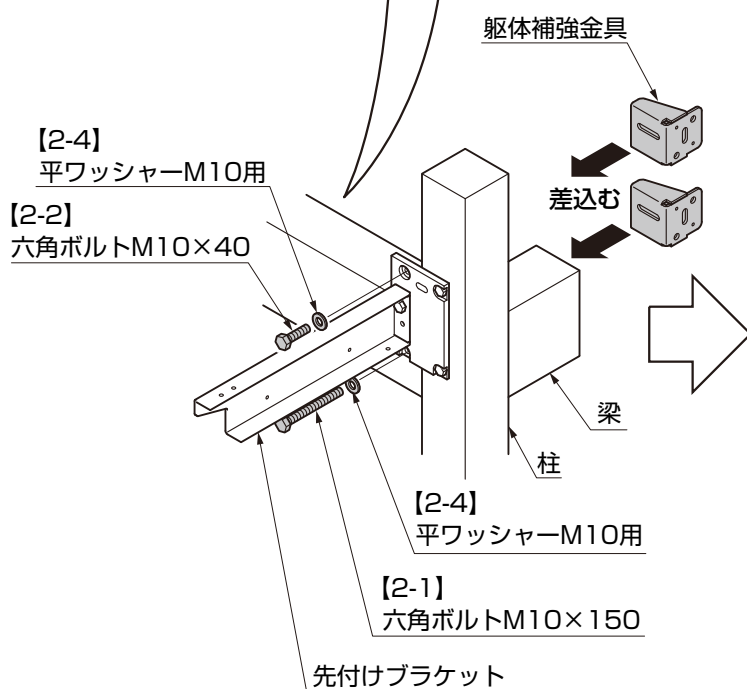
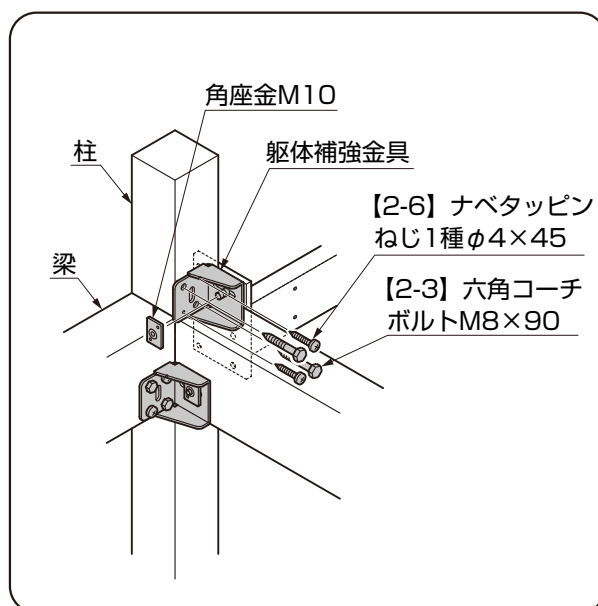
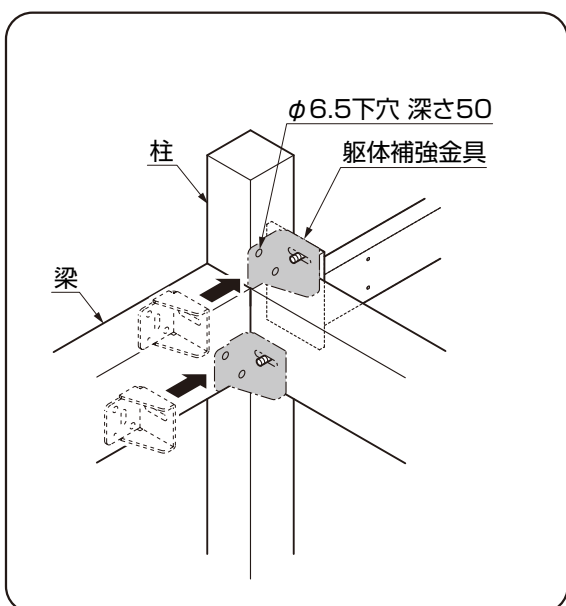


- ①先付けブラケットに【2-1】、【2-3】、【2-4】を差込み、躯体補強金具の位置を決めてください。
- ②梁、柱に躯体補強金具の穴位置に合わせて印をつけてください。
- ③印をつけた位置にφ12貫通穴の穴加工をしてください。



- ④躯体補強金具を柱と梁に【2-1】、【2-4】、【2-5】、【2-6】で取付けてください。
- ⑤躯体補強金具を角座金M10で固定してください。

●フルフラット 単体

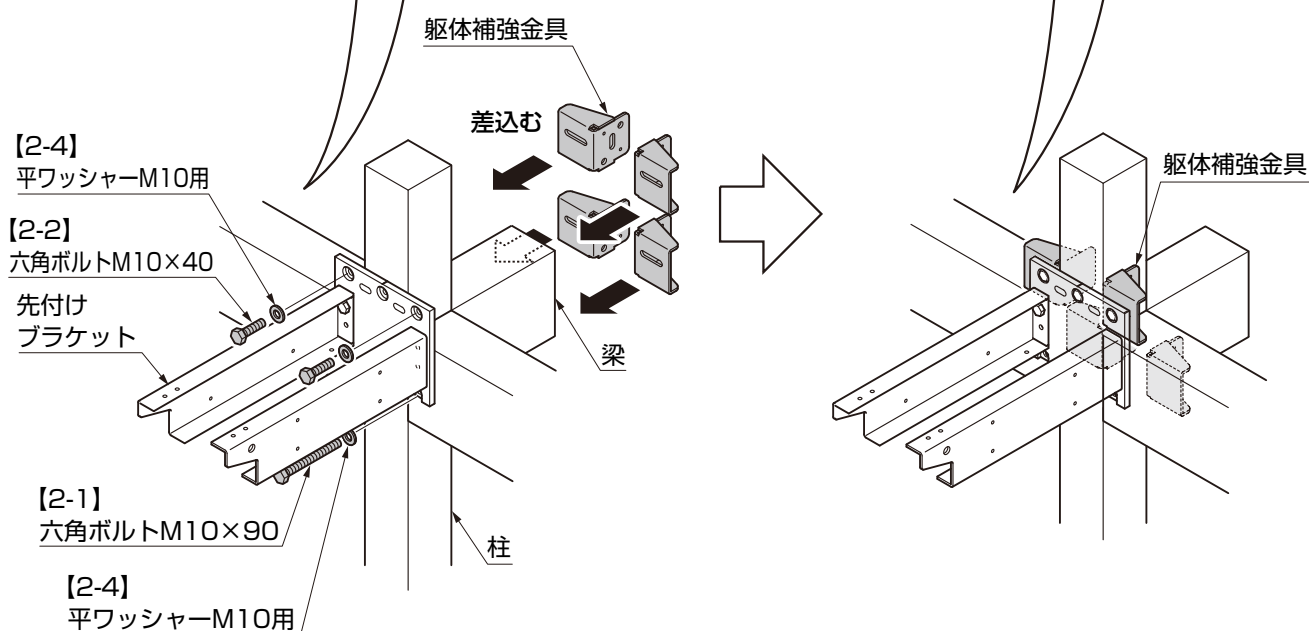
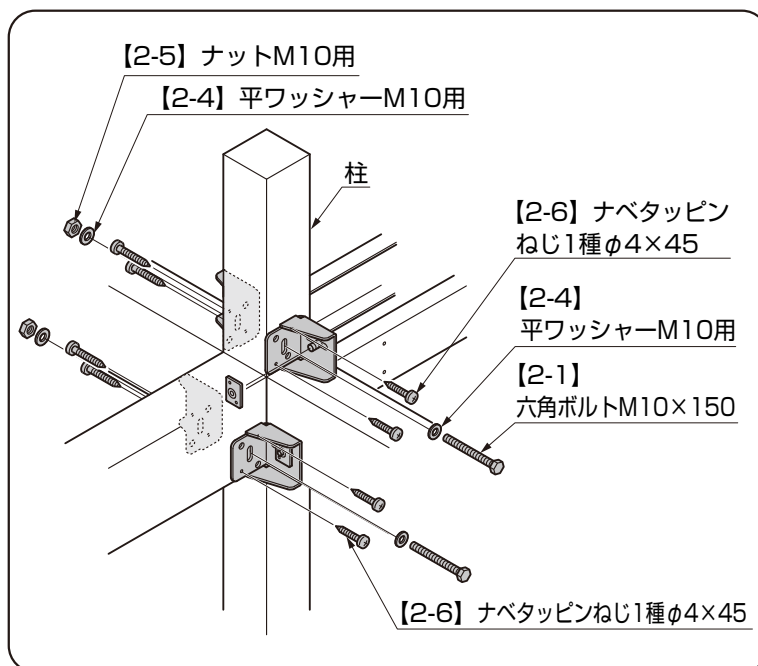
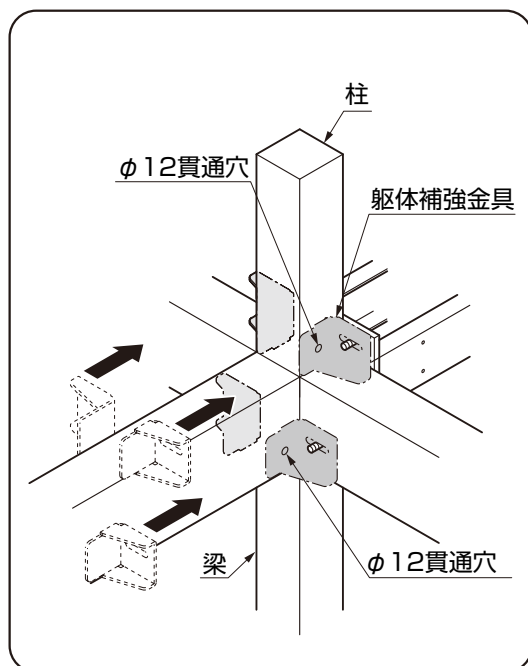


- ①先付けブラケットに【2-1】、【2-2】、【2-4】を差込み、躯体補強金具の位置を決めてください。
- ②梁、柱に躯体補強金具の穴位置に合わせて印をつけてください。
- ③印をつけた位置にφ6.5下穴/深さ50の穴加工をしてください。
- ④躯体補強金具を柱と梁に【2-3】、【2-6】で取付けてください。
- ⑤躯体補強金具を角座金M10で固定してください。

2 先付けブラケットの取付け (つづき)

3 躯体補強金具の取付け (つづき)

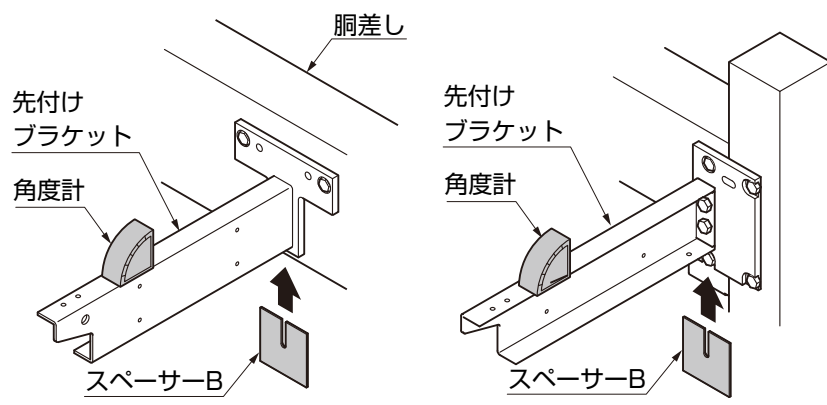
●フルフラット 連棟



- ①先付けブラケットに【2-1】、【2-2】、【2-4】を差込み、躯体補強金具の位置を決めてください。
- ②梁、柱に躯体補強金具の穴位置に合わせて印をつけてください。
- ③印をつけた位置にφ12貫通穴の穴加工をしてください。
- ④躯体補強金具を柱と梁に【2-1】、【2-4】、【2-5】、【2-6】で取付けてください。
- ⑤躯体補強金具を角座金M10で固定してください。

8 最終調整

1 角度確認

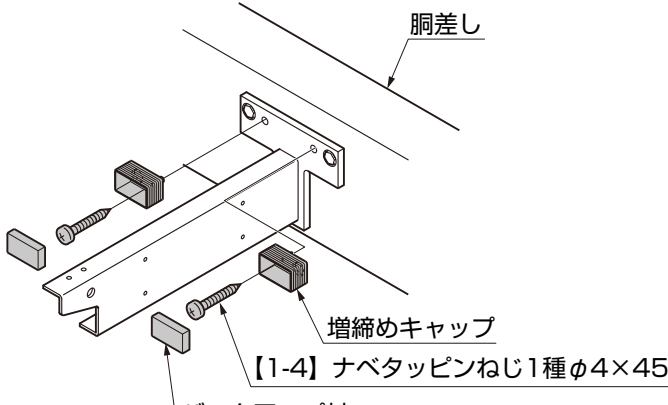


ポイント

- 先付けブラケットの取付角度は、先端が0.5度（5mm）上向きになります。

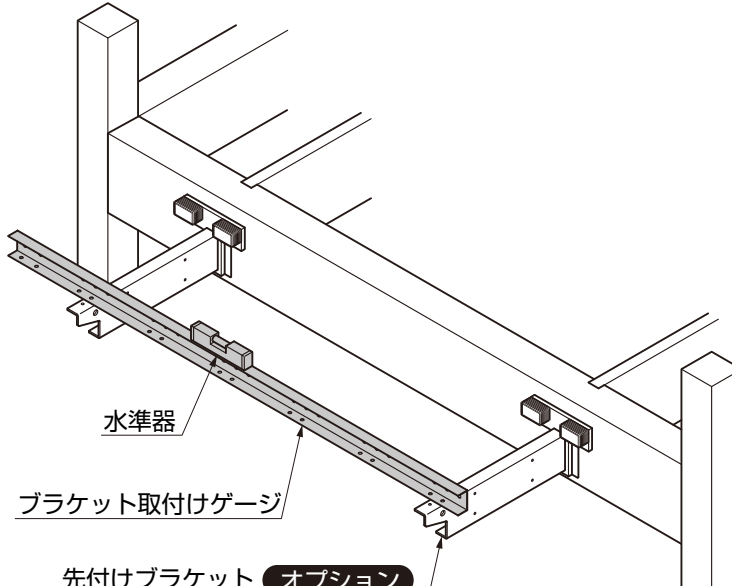
- ①角度計などで先付けブラケットの取付角度を確認してください。
- ②スペーサーBを先付けブラケットと胴差しのすき間に挿入し、取付角度を調整してください。

2 増締めキャップの取付け ※胴差し納まりの場合の作業です。



- ①増締めキャップを胴差しに【1-4】で取付けてください。
- ②バックアップ材を増締めキャップにはめ込んでください。

3 水平確認



ポイント

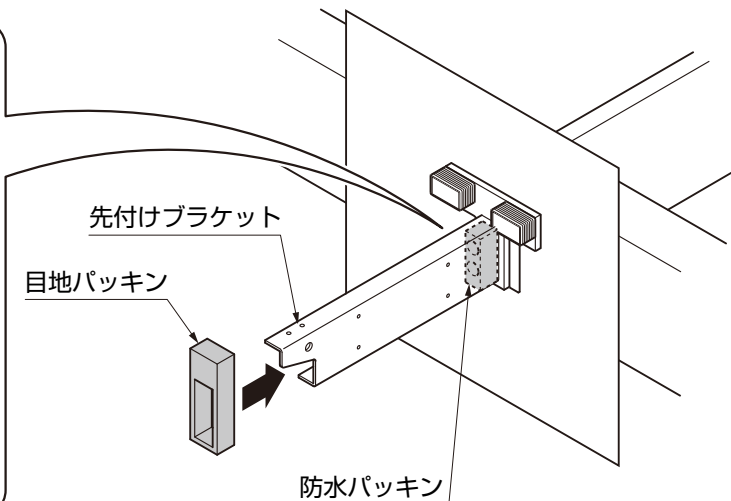
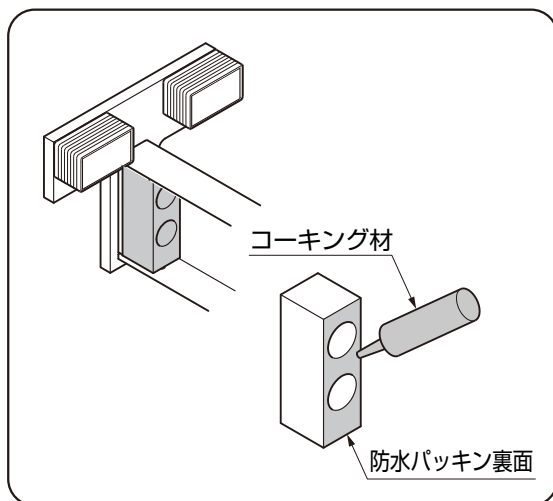
- 先付けブラケットを取付けた後で、必ずブラケットとブラケットの高さが水平になっていることを確認してください。

- ①ブラケット取付けゲージを先付けブラケットと先付けブラケットの間にのせ、水準器などで水平を確認してください。

9 防水パッキンの張付け

● 胴差し納まりの場合の作業です。

1 パッキンの取付け



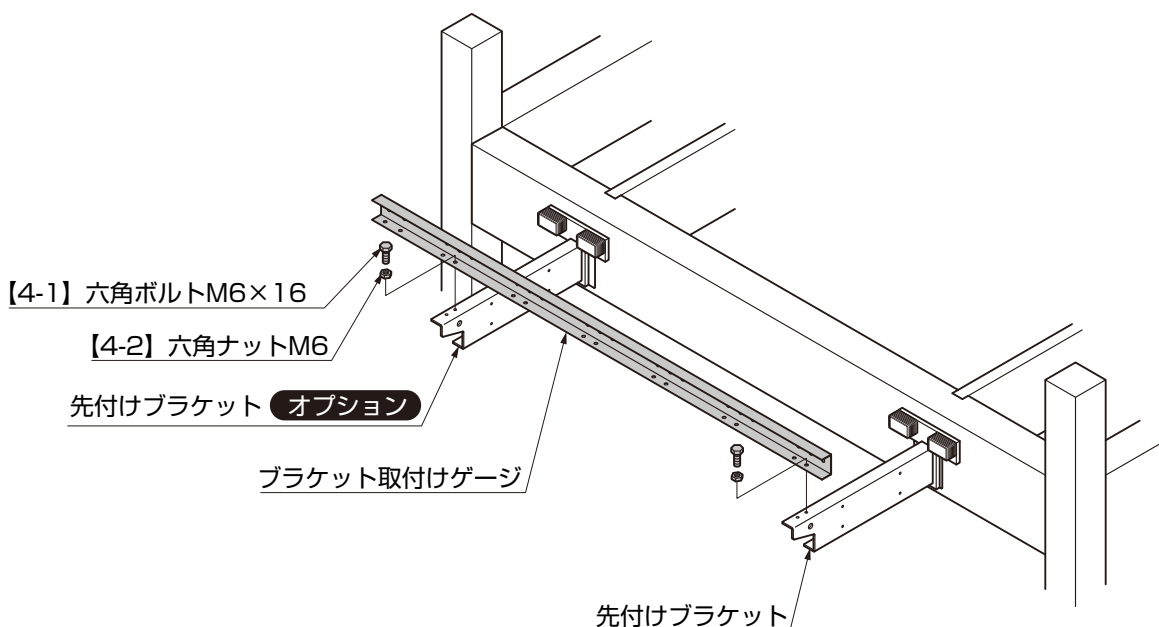
① 防水パッキン裏面にシーリングして先付けブラケットに接着してください。

ポイント

- 先付けブラケットと防水パッキンの間にすき間がないように接着してください。
- 先付けブラケット背板と外壁のコーキング材スペースを5～10mmとるよう、工務店さまと打合わせをしてください。

② 目地パッキンを先付けブラケットの根元までスライドさせます。

2 ブラケットの水平を維持するために



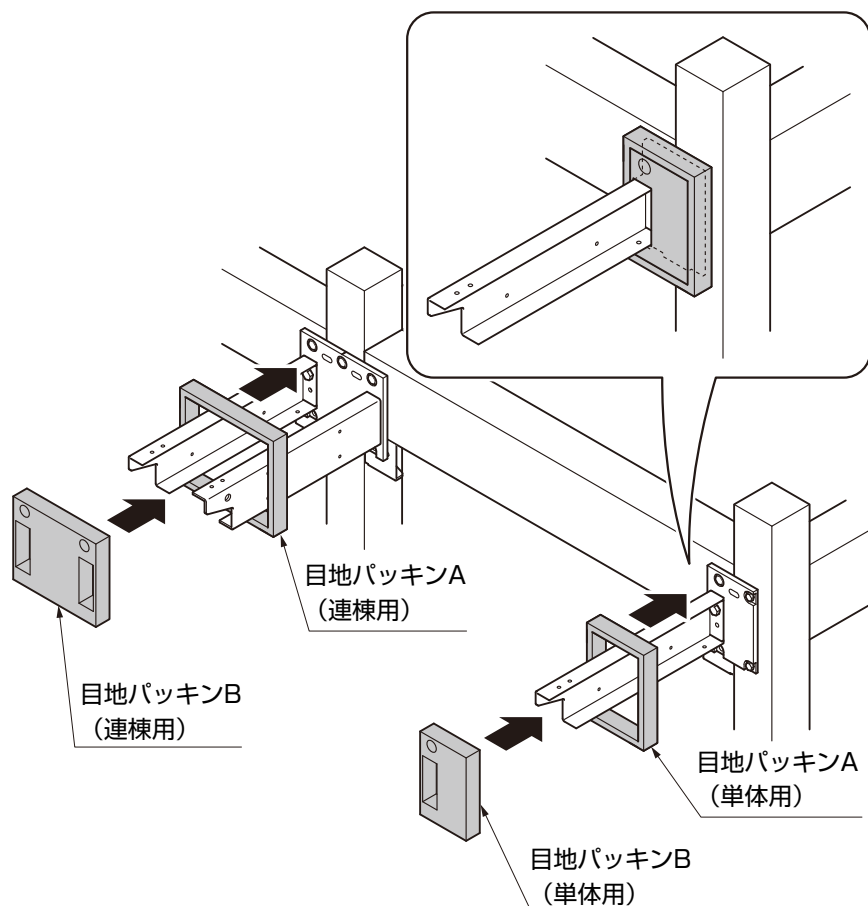
① ブラケット取付けゲージを先付けブラケットに【4-1】、【4-2】で取付けてください。

ポイント

- 本手順で外壁工事前の手順は終了します。
- ブラケット取付けゲージは外壁仕上げが完了するまで、取外さないでください。

● 柱芯納まりの場合の作業です。

1 パッキンの取付け

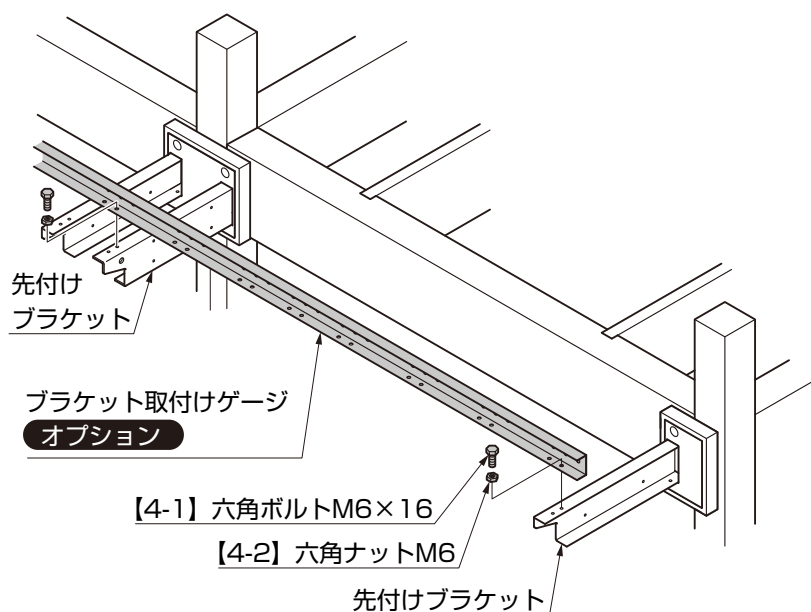


① 目地パッキンA、Bを先付けブラケットに取付けてください。

ポイント

- 目地パッキンは、外壁工事後取外します。
- 外装材はブラケット背板まわりのパッキン（目地パッキンA）に当てて施工するよう工務店様と打ち合わせをしてください。

2 ブラケットの水平を維持するために



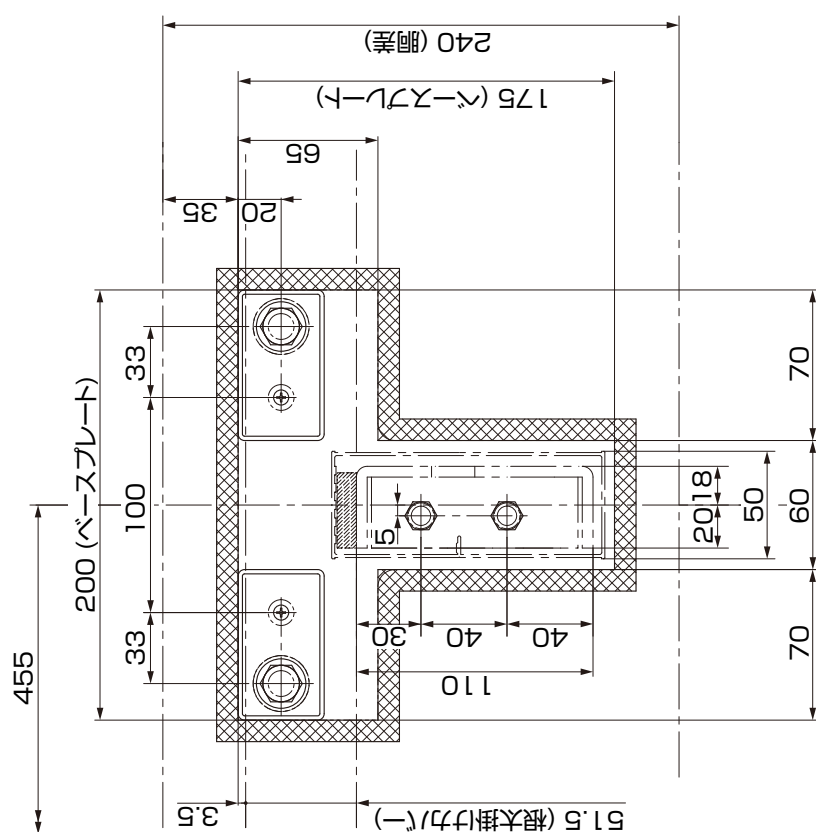
① ブラケット取付けゲージを先付けブラケットに【4-1】、【4-2】で取付けてください。

ポイント

- 本手順で外壁工事前の手順は終了します。
- ブラケット取付けゲージは外壁仕上げが完了するまで、取外さないでください。

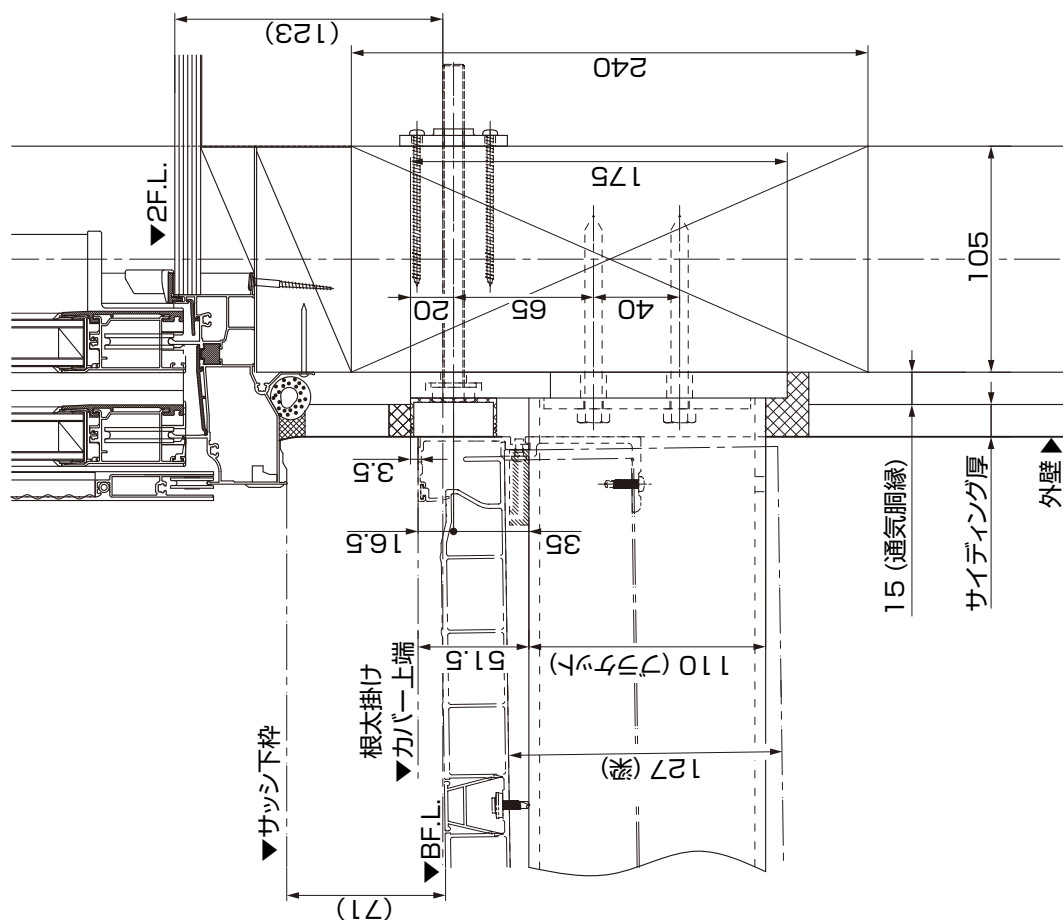
10 納まり図

1 胴差し納まり

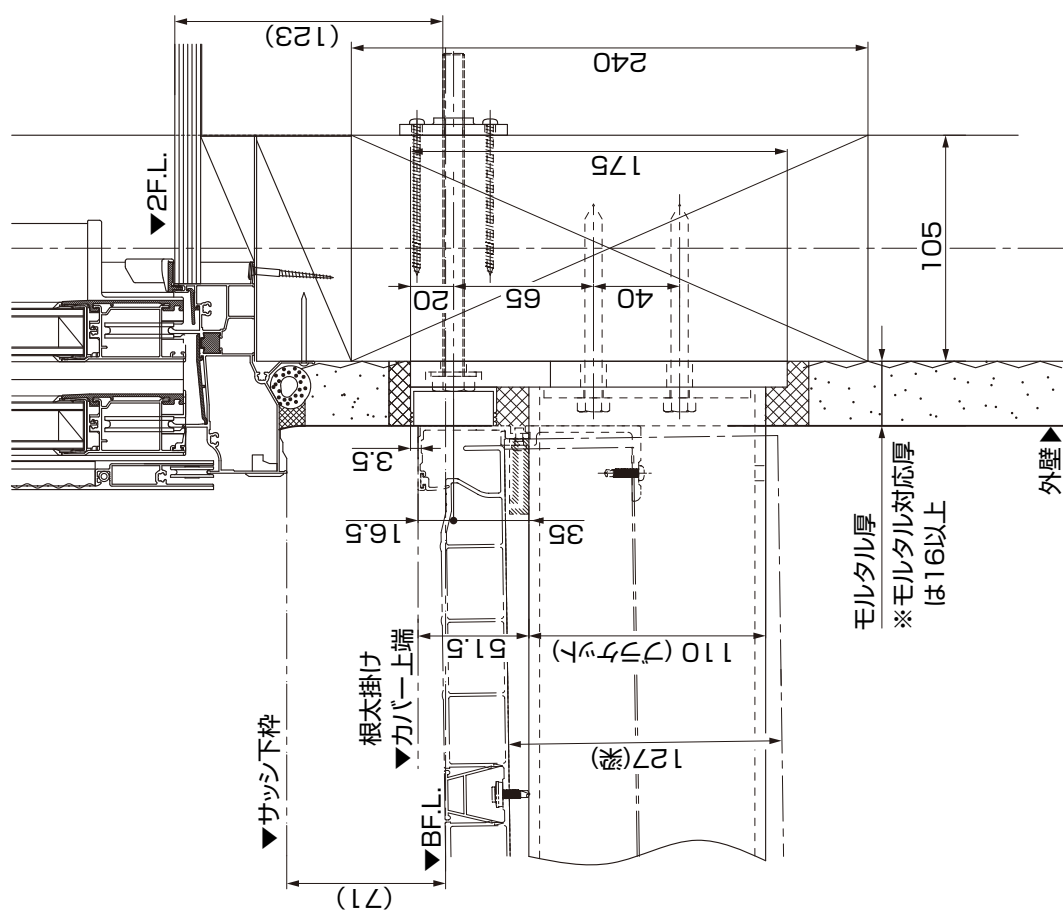


● 正面図

外壁:サイディング(通気胴縁)



外壁:モルタル吹き付け

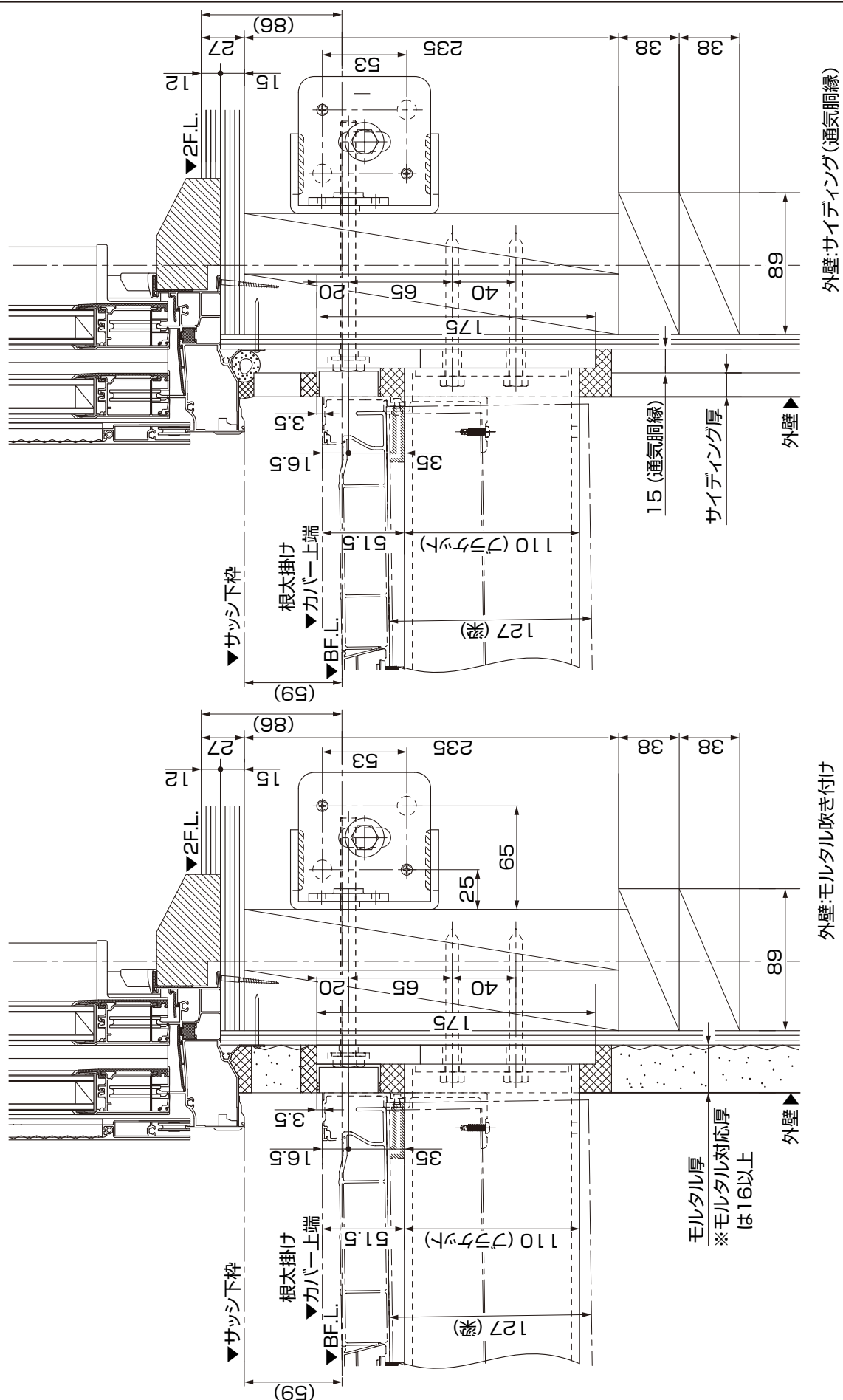


●側面図
●在来工法

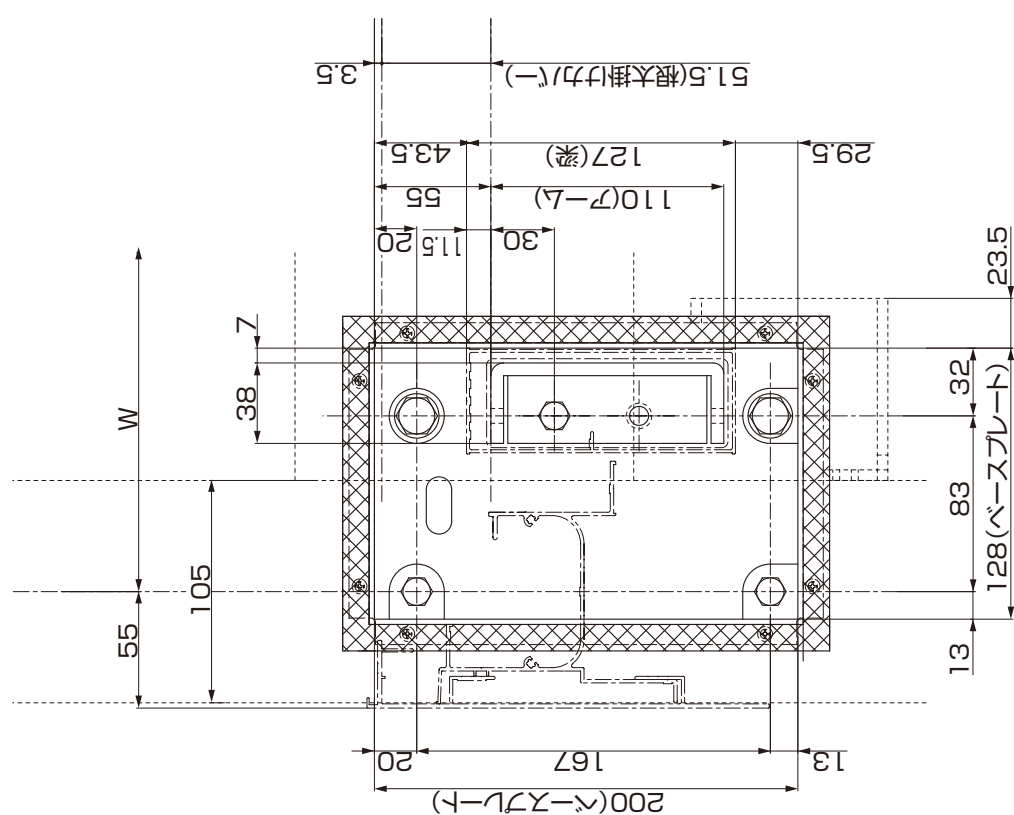
1 胴差し納まり (つづき)

●側面図

●2×4工法



2 柱芯納まり



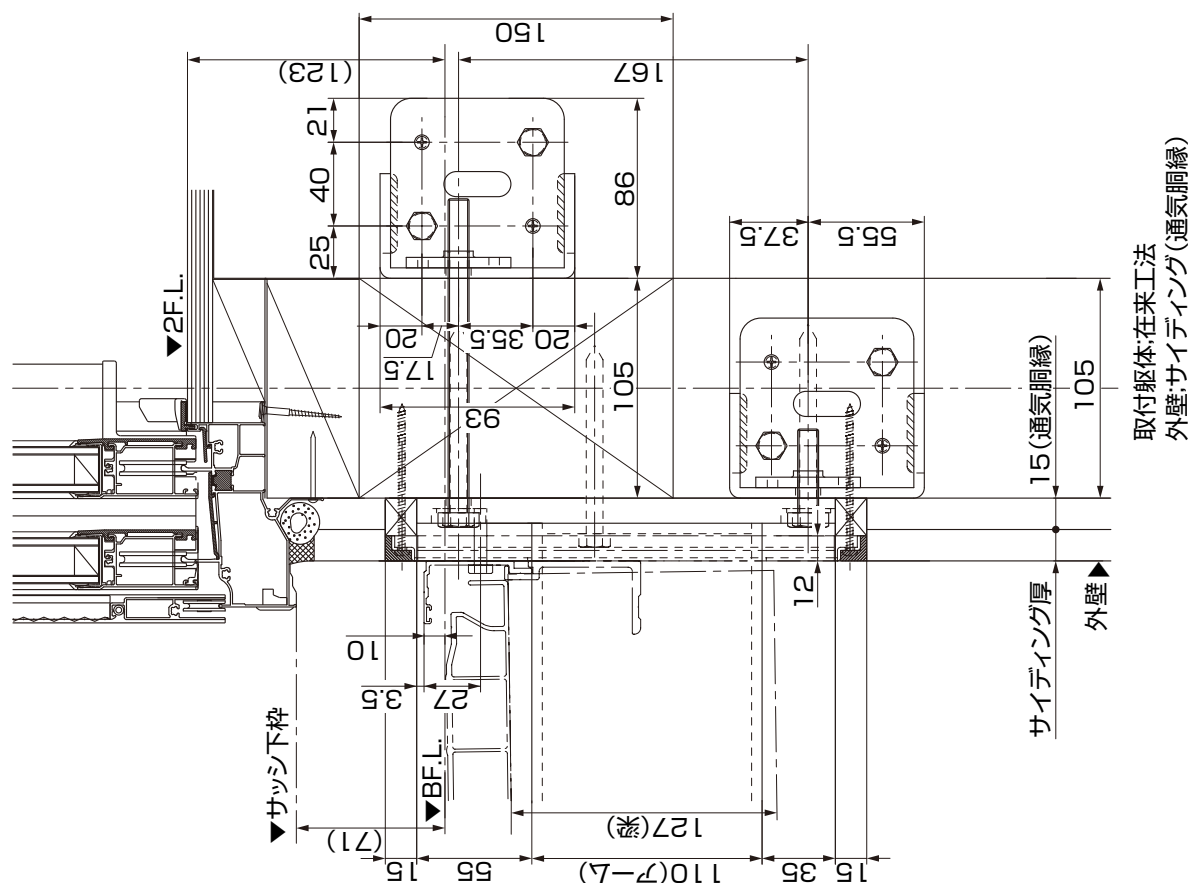
● 単体
● 正面図

2 柱芯納まり（つづき）

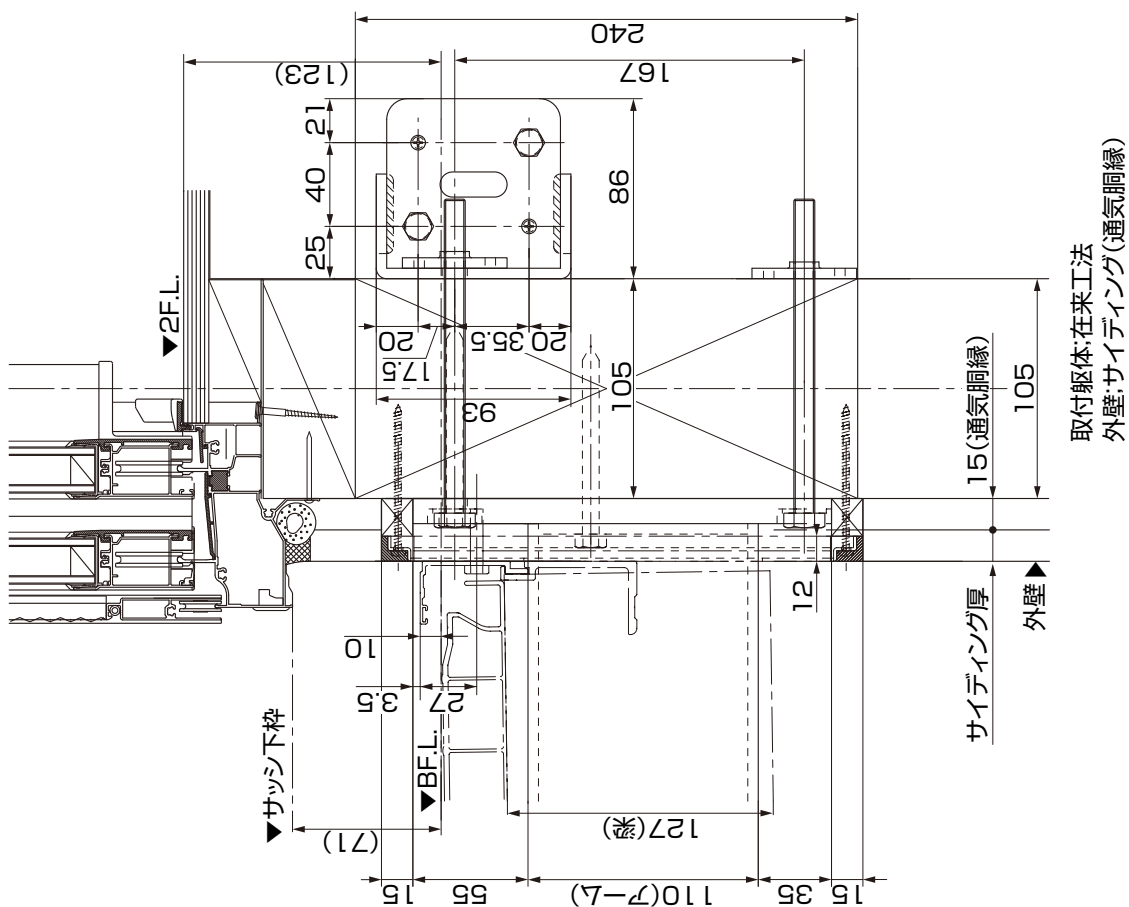
●単体 (つづき)

●側面図

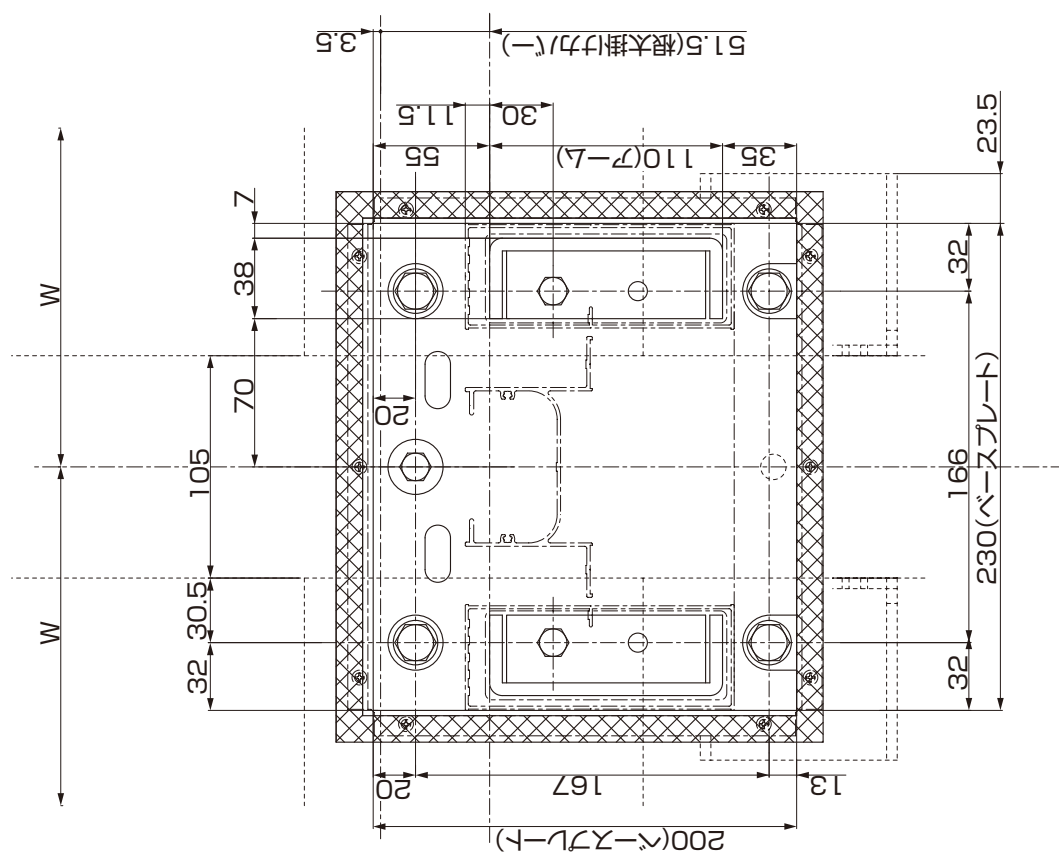
【胴差しの高さが150mmの場合】



【胴差しの高さが240mm以上の場合】



● 連棟
○ 正面図

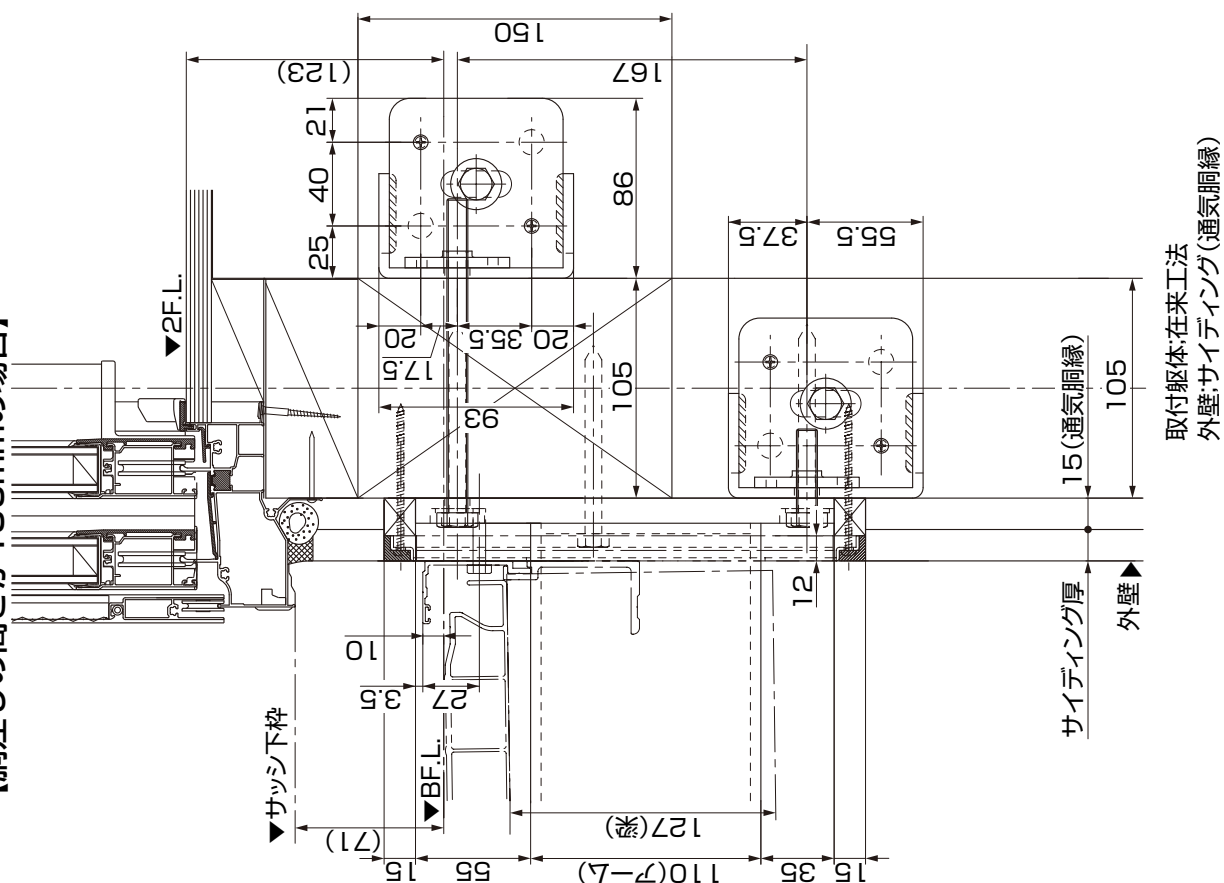


2 柱芯納まり (つづき)

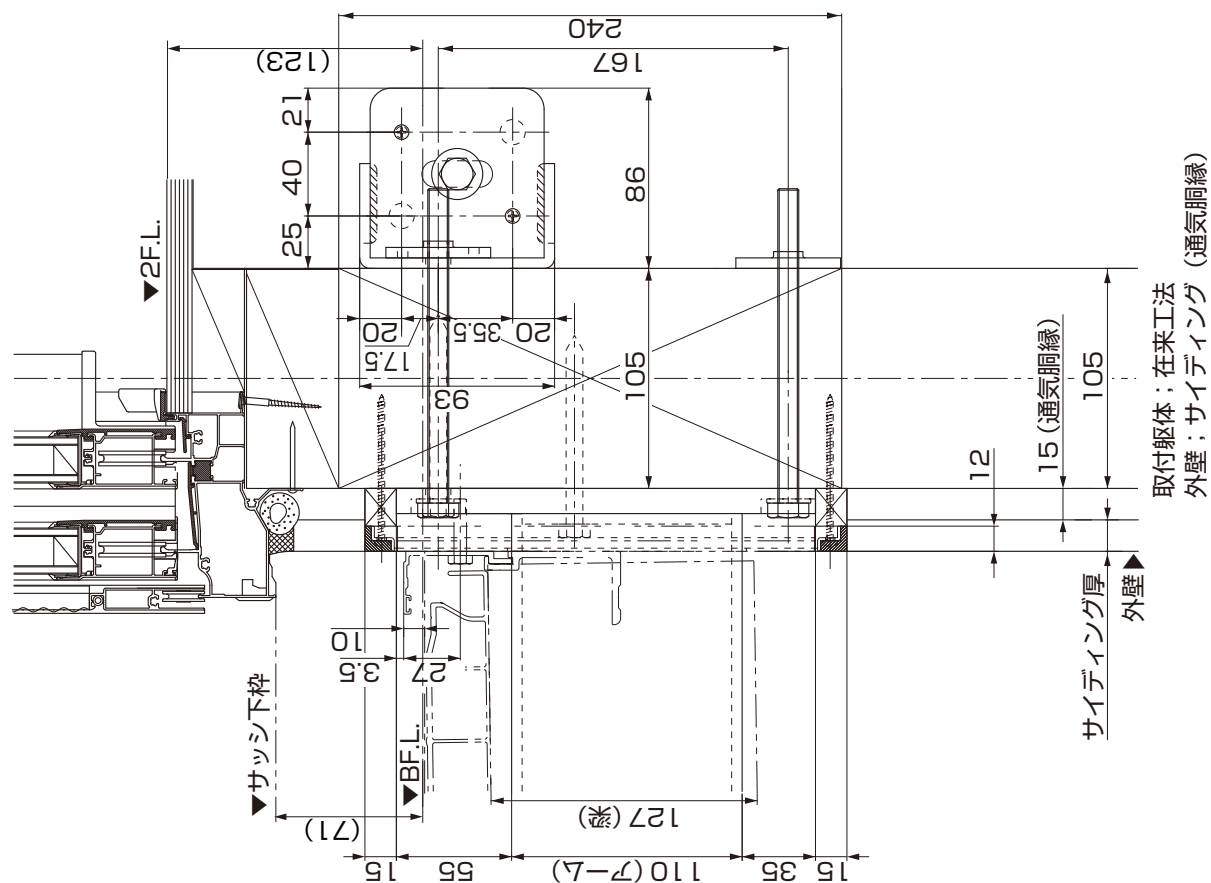
● 連棟 (つづき)

○ 側面図 (つづき)

【胴差しの高さが150mmの場合】



【胴差しの高さが240mm以上の場合】



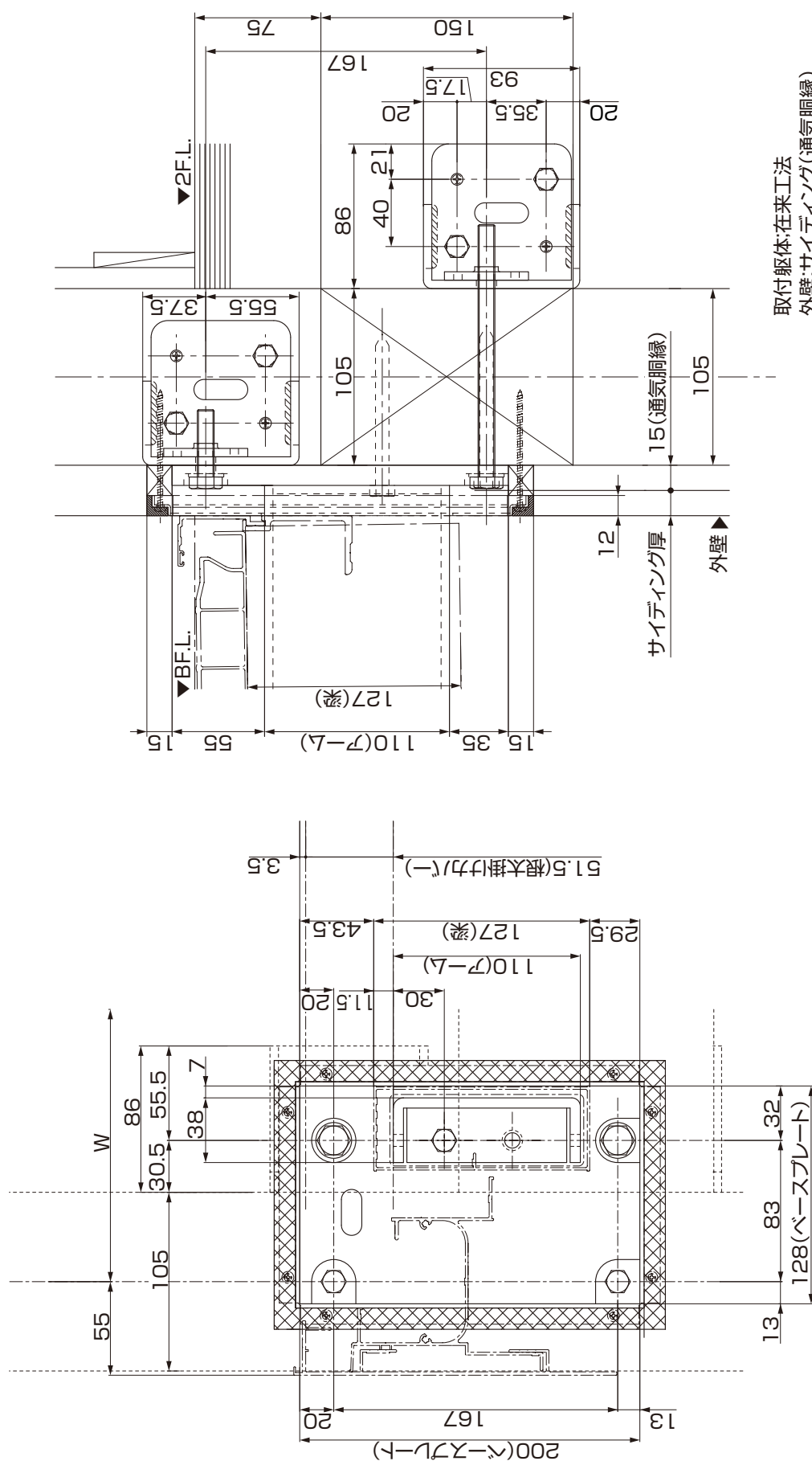
10 納まり図

取付躯体;在来工法

外壁;サイディング(通気胴縁)

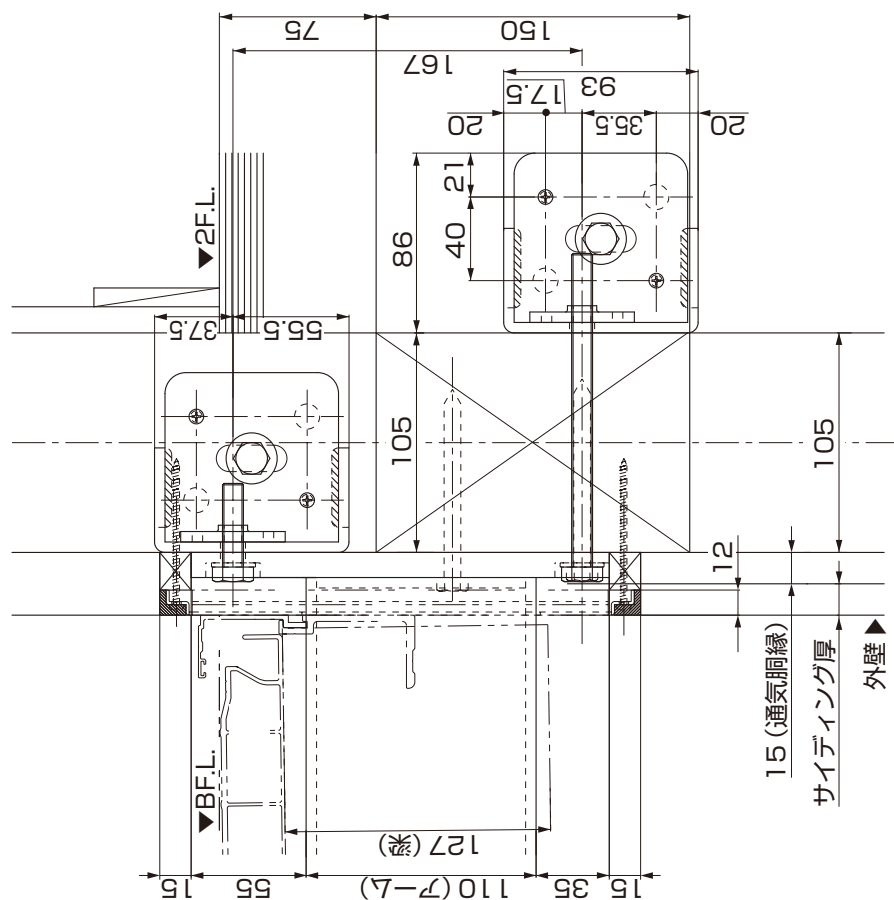
● 側面図

● 正面図



3 フルフラット納まり (つづき)

●側面図



●連棟

●正面図

